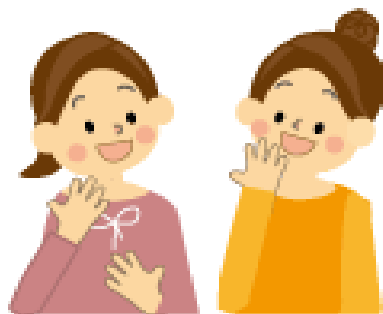


親育ち応援学習プログラム

ハンドブック

ファシリテーターの方へ
「親プロ」を実施するときの参考に！



◆もくじ◆

1 導 入

【アイスブレイクからグループ分け】

- 「ソーレツ！（〇人で集まれ！）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 「バースデーチェーン！」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 「ポン！（後出しじゃんけん）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

【グループでの自己紹介】

- 「自己紹介しましょう！」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2 展 開

【乳幼児をもつ保護者を対象にしたプログラム】

- Ⅱ-2 「いやいや期をどうのりこえる？（2歳児）」・・・・・・・・・・ 7
- Ⅱ-3 「子ども同士のトラブル・どう解決する？」・・・・・・・・・・ 10
- Ⅱ-4 「子どもは『生き生き』してる？」・・・・・・・・・・ 12
- Ⅱ-5 「子育てのイライラとうまく付き合う親になろう」・・・・・・・・ 14
- Ⅱ-7 「そういえば自分も…考えよう 認めよう
～子どものいいところ・気になるところ～」・・・・・・・・・・ 18
- Ⅱ-8 「本を通して親子でコミュニケーション～読み聞かせ、どうしてる？～」・ 21
- Ⅱ-9 「自分でできたよ！うれしいな～入学までに応援できること～」・・・・ 24
- Ⅱ-10 「私の子育て、これでいいの？～開かれた子育て関係づくり～」・・・・ 29

【学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム】

- Ⅲ-1 「早ね早おき朝ごはんで 元気アップ大作戦！」・・・・・・・・・・ 33
- Ⅲ-2 「子どもの規範意識ってどうやって育てるの？」・・・・・・・・・・ 37
- Ⅲ-3 「ふりかえろう・子どもとの接し方」・・・・・・・・・・ 39
- Ⅲ-4 「困ったことへの対処法」・・・・・・・・・・ 42
- Ⅲ-5 「気づいていますか？ 子どものサイン！」・・・・・・・・・・ 45
- Ⅲ-6 「子どもの家庭学習について楽しく話し合おう！
～探そう！魔法の言葉・技～」・・・・・・・・・・ 47
- Ⅲ-7 「ママ友・パパ友づくりしていますか？
～親同士のコミュニケーションづくり～」・・・・・・・・・・ 51
- Ⅲ-8 「『いただきます』『ごちそうさま』～食事への感謝，食事のマナー」・・ 54
- Ⅲ-9 「子どもの食事ってこれでいいの？」・・・・・・・・・・ 56
- Ⅲ-11 「大人と子どもとケータイ・スマホ」・・・・・・・・・・ 59
- Ⅲ-12 「子どもはどこで育つの？～開かれた子育て環境～」・・・・・・・・・・ 63

【思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム】

- IV-1 「思春期の心 ～青春時代へタイムスリップ～」・・・・・・・・・・66
- IV-2 「子どもの『携帯電話』どう考える？」・・・・・・・・・・70
- IV-2 <アレンジ版> 「大丈夫？子どものケータイ・ネット」・・・・・・・・73
- IV-4 「揺れ動く『新思春期』」・・・・・・・・・・76
- IV-5 「夢見る力を育む応援～大人の役割を考えよう～

【祖父母をはじめ、子育てを支援する幅広い年齢の方を対象にしたプログラム】

- V-1 「子育ての不易流行を考える」・・・・・・・・・・62

「ソ～レッツ！（〇人で集まれ！）」

①進め方

- ファシリテーターの「ソ～レッツ！」の後の拍手に合わせて、参加者も拍手する。
- 拍手の回数は1回から始まり、「ソ～レッツ！」のたびに一つずつ増える。
- 繰り返した後、ファシリテーターの「そこまで！」の合図で、合図前に拍手した回数を人数として集まり、グループをつくる。

②実践例

今日は参加者のみなさんにしっかり声を出していただき、また、しっかりアイデアも出していただきながら、情報交換をしていくので、まずは声を出したり、手を動かしたりする練習から始めましょう。

私が「ソ～レッツ！」と言いますから、その後、拍手を1回してください。続いて私がまた「ソ～レッツ！」と合図しますので、今度は一つ増やして2回拍手をしてください。続いて「ソ～レッツ！」と、また合図を出すので…今度は、拍手は？

そうです。今日の参加者のみなさんは「カン」がいいですね。では、ちょっと練習してみましよう！最初からいきますよ！

3回！



「ソ～レッツ！」

パン(拍手)！

「ソ～レッツ！」

パン！パン！(拍手)！

「ソ～レッツ！」

パン！パン！パン！(拍手)！

「ソ～レッツ！」

パン！パン！パン！パン！(拍手)！

(適当な回数で終えて…)

はい、ありがとうございます。とってもリズムよく拍手ができていますね。では、今度は、今と同じルールで行いますが、拍手の後、私が「そこまで！」と言ったら、最後の拍手の回数だけの人数で集まってグループを作り、手をつないで座ってください。例えば、4回拍手をした後、「そこまで！」と言ったら、4人で集まってグループを、5回だったら5人…というふうになります。グループになると時、今日初めて会った人や、普段あまり話をしたことのない人となるといいですね。では、始めますよ！



「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「そこまで！」

パン(拍手)！

パン！パン！(拍手)！

パン！パン！パン！(拍手)！

パン！パン！パン！パン！(拍手)



4回よ！ 4人～4人～ 誰かこっちへきて…



(グループができた様子を見て…)
4人になれなかった方は…次は頑張ってみてくださいね！

時間に余裕があれば何回か繰り返して行く。全員の人数分だけ拍手をし、全員が集まり「よろしく！」の挨拶などを取り入れてもおもしろい。(偶数と奇数を交互に行うと良い)

(5人グループで以後の学習を進める場合)



それでは、もう一度やってみましょう！ 今度は、今と同じ人とグループにならないようにしてみましょう。準備はいいですか…

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「ソ～レッ！」

「そこまで！」

パン(拍手)！

パン！パン！(拍手)！

パン！パン！パン！(拍手)！

パン！パン！パン！パン！(拍手)

パン！パン！パン！パン！パン！(拍手)

5回よ！ 5人～ 誰かこっちへきて…



では、今作った5人のグループでこれからの研修を進めるので、そのグループで席に座ってください。(5人になれなかった方へは、どのグループに入るのかを指示する。)



「バースデーチェーン！」

①進め方

- 1月1日から生年月日の早い順に円形(あるいは1列)に並ぶ。
- 並んだ後, 1月生まれの人から順に挙手してもらい, 互いに確認する。
- できた列で, グループをつくる。

②実践例



今日はこれから、『バースデーチェーン』を行います。ルールは簡単です。ここを先頭に(ある場所を特定しておく)生まれ順, 生年月日の早い順に並んでもらいます。どうです…簡単でしょう！
あまりにもこれでは簡単すぎるので, 並ぶ際には『無言』でお願いします。つまり, しゃべらずに, 互いにジェスチャー等で確認しながら並んでもらいます。

指で書いたり, 本数を出すのはOKですか？



(参加者からのルールの問い合わせを確認しながら…)

はい, それはOKにします。

あっ 生年月日といいましたが, 生まれ年まで条件に入れてしまうと, 個人情報に関わることになりますので, 今日は, 「月日」だけにしようと思います。

時間は, およそ〇分間とします。今日の参加者は〇名おられます。以前, 行ったところでは〇分程度かかりました。今日の参観者の方々はどうでしょうか？

※時間等についてはおおよその時間を提示し, 参加者の意欲を上げるようにする。

それではよろしいでしょうか？では, ようい…はじめ！



(列ができあがった頃を見計らって…)

では, そこまでにします。それでは, 生年月日ごとになっているかどうかを確かめてみましょう。先頭の人から順番に, 月日を言ってください。

(順番に月日を言うてもらう)

*間違っていたら, 順番を入れ替わってもらったり, 自分と同じ月日の方がいたら, その人と握手をしたりするなどして, 盛り上げる。

これで, 今日のバースデーチェーンが完成しました。では, これからグループをつくります。

先頭からグループの人数ごとに分けていき, 最初のグループを①とし, ①のグループ札のある席へ座ってもらうように指示する。(荷物を持つての移動となるので, ①から順次指示をしながら座ってもらう。)

「ポン！（後出しじゃんけん）」

①進め方

- ファシリテーターの「ポン！」に続いて、参加者が「ポン！」と声を出す。
- ファシリテーターが「ポン！」と言いながら「グー」（「チョキ」「パー」）を出す。参加者は続けて「ポン！」と言い「グー」（「チョキ」「パー」）を出す。
- 最初は、同じものを出し、慣れてきたら、「勝つもの」「負けるもの」と条件を変えて行う。

②実践例

今日は参加者のみなさんにしっかり声を出して、情報交換をしていただくので、まずは声を出す練習からしましょう。
私が「ポン！」と言いますから、みなさん続いて「ポン！」と言ってください。ではいきます。
「ポン！」

まだまだ声が出ますよね？ （と何回か繰り返し）

だんだんいい声が出てきましたね。ではみなさん、「ポン！」と言えば、何を想像されますか？

「ポン！」

「栓を抜く音」
「太鼓」
「じゃんけん」



そうです！ もう私が出してほしいと思っている答えをすぐに出していただいて、とても進めやすいです。（といって、「じゃんけん」を言った参加者と握手。）

では、みなさんと「じゃんけん」をしたいと思いますが、普通の「じゃんけん」ではなく、今日の研修で、私とみなさんの気持ちが一致するように、先程の「ポン！」と同じように、私が「ポン！」と言って、何かを出すので、みなさんは後に続いて「ポン！」と言いながら私と同じものを出してください。それではいきますよ…

「ポン！」

（だんだん出すタイミングを早くし、声が小さくなったら「声が小さくなりましたよ！」などと突っ込みを入れ、何度か繰り返す。）

では、次に、今日の研修で、みなさんが気持ちよく取り組めるように、私に勝ってください。たとえば、私が「ポン！」といって「グー」を出したら、みなさんは？

そうですね…。では、やってみますよ！

「ポン！」

「ポン！」

「パー！」

「ポン！」





みなさん上手に出せましたね。間違っただ人はいませんか？ では、どんどんやりますよ。（だんだんテンポを上げ、「ポン！」が小さくなったら「声も忘れずに！」とか、間違えた人に声をかけながら進める。）

そろそろみなさん気持ちよくなったところで、今日、進行をする私も気持ちよくなりたいので、今度は、私に負けてください。

もうおわかりですよ。私が「パー」を出したら、みなさんは？
そうですね…。では、やってみますよ。
「ポン！」

「えーっ」

「ゲー」



みなさん上手に出せましたね。間違っただ人はいませんか？ では、どんどんやりますよ。（だんだんテンポを上げ、「ポン！」が小さくなったら「声も忘れずに！」とか、間違えた人に声をかけながら進める。）

ありがとうございました。私もこれで気持ちよく進行ができます。それでは……



【グループ分け】

これから、私に勝ってしまったたり、引き分けたりした方…つまり、失敗した方は自己申告で、どんどん前を出て、一列に並んでください。もちろん、テンポに遅れた方もです。あくまでも自己申告ですのでよろしくお願いします。それではまず最初です…

「ポン！」

どんどん前に出てきてくださいね。よろしいですか…次いきますよ！

（様子を見ながら進める。）

「ポン！」

「あーっ だめだった！」



（残りが2～3人になったところで）
すごいですね…この方々が今日のチャンピオンです。拍手を贈りましょう！

では、一列に並んだ方の先頭から4人（1グループ4人の場合）ずつでグループを作って、席の方へお戻りください。

最初のグループを①とし、①のグループ札のある席へ座ってもらうように指示する。（荷物を持つての移動となるので、①から順次指示をしながら座ってもらう。）

1 導入 グループでの自己紹介

「自己紹介しましょう！」

①進め方

- 名札を作る
- 氏名と今日呼んでほしい名前、テーマにそった自分の考えを話す。

②実践例



それでは、お机の上にある名札カードに、今日この研修会で呼んでほしいご自分の名前を書いてください。もちろん本名でも構いませんが・・・たとえば、私は「健(たけし)」ですが、「けんさん」にします。「エリザベス」「乙姫」・・・何でも構いませんよ。書かけたら、そのカードを胸につけてください。

〇〇小
けんさん

※名札を机の上に
立ててもよい。

「〇〇にしよう！」
「△△がいいなあ！」



(準備ができたことを確認して)

それでは、これから自己紹介をしてもらいます。自己紹介では、4つのことを紹介してください。一つ目はご自分のお名前です。二つ目は今日呼んでほしいお名前、三つ目は今朝起きた時間です。何時何分までおっしゃってください。(注1)そして、最後は最近のお子さんの家庭学習で困っていることを簡単に(注2)お願いします。以上4つのことを、お一人1分間でお願いします。私が「どうぞ！」「そこまで！」と合図(注3)をします。では、まず最初の方ですが、窓際の一番はしの方から時計回りで(注4)お願いします。では、最初の方「どうぞ！」(様子を見ながら、「どうぞ！」「そこまで！」の合図を出していく。)

(注1) 展開時でのグループの役割決めに使う。

例) 一番早起きの方が司会、二番目が発表、三番目が記録・・・

起床時間以外にも、PTA役員経験年数、睡眠時間、色シール(グループ人数分の色の違うシールを用意しておき、好きな色を名札に貼ってもらう)などのように順番が明確になるものがよい。(色シールの場合、赤が1番、青が2番・・・といったようにする)

(注2) テーマにそった話題を提示するとよい。

(注3) 合図は、笛、ベルなどを使用して、雰囲気盛り上げるのもよい。展開時の話合いの合図にもつなげる。

(注4) 順番を明確に指示する方がスムーズに進行する。



(全員の自己紹介が終わったことを確認して)

ありがとうございました。では、これからワークに入りますが、今自己紹介の中で、一番早起きの方が司会、二番目が発表、三番目が記録をお願いします。その他の人は、グループの盛り上げ役ということでお願いします。では、ワークに入ります。

Ⅱ-2「いやいや期をどうのりこえる？」(2歳児)

①進め方

- ワーク1 最近の子どもの様子を思い出し発表し合う。
- ワーク2 困った場面について話し合う。
- ワーク3 実行できそうなことを出し合う。

② 実践例

テリブル トゥー(s)

2歳児のことを英語で「Terrible Two(s)」(「恐るべき2歳」「魔の2歳」の意)と呼びます。この頃の子はまだ善悪の区別がよくわからない一方で、「これをやりたい」「これが好き」というこだわりや好奇心が強くなります。その反面、思うようにはできない、認識や感情に能力や行動が追い付かないので自分に腹が立つという時期で、非常に子育ての難しい時期であるといえます。今日はそんな「いやいや期をどうのりこえる？」というテーマで進めてきます。

ワークシート1配付

まず、最近のお子さんの様子を思い出してみましよう。お子さんの行動や言葉でうれしかったことや困ったこと、びっくりしたことなどはありませんでしたか？

机の上に置いている付箋紙に、1つのことにつき1枚書いていってください。3つ書くことがある方は3枚の付箋紙にそれぞれ1つずつ書くことになります。書いた付箋紙は、後で模造紙に貼っていくので持っておいてください。時間は〇分です。

(終了の合図)

次に、今書いた付箋紙(意見)をグループの中で発表しながら、机の上に置いている模造紙に貼っていきます。貼っていく時に同じような意見(内容)があれば、その意見が貼られている場所の近くにまとめて貼っていき、出た意見を整理してください。それでは各グループで発表し合ってください。時間は〇分です。グループのリーダーの方、進行をお願いします。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。ワーク2へつながる会話等に注目する。

(終了の合図)

では、どんな意見が出てきたかグループの様子を少し聞かせてもらいましょう。各グループの発表の方よろしくお願いします。

(いくつかのグループに発表してもらおう。)

ありがとうございました。そうですね、私にも思い出がありますが、言葉を話すようになってくると、大人が子どもに話す内容もある程度理解できるようになってきますが、こちらが急いでいる時に限って、だだをこねたり、急いでくれなかつたりすると困りますよね。そこで、ワーク2にうつります。

ワークシート2配付



ワーク2では、先ほど出し合った子どもの様子のうち、困ったことをグループの中で1つ選んで、

- ①子どもの気持ちはどうだったのか
- ②自分の気持ちはどうだったのか
- ③どう関わればよかったのか

の3点について話し合ひましょう。時間は〇分です。では、どうぞ。

グループの発表者に、グループでの様子を伝えてもらう。

一通り意見が出たところで資料を配付し、子どもへの関わり方のヒントとする。

資料配付



(保護者の意見に共感しながら…)

そうですね。子どもへどう関わっていったらよいか…難しいですね。では、どう子どもたちと関わっていくのか…資料をもとに考えていきましょう。

(各自資料を読む。ファシリテーターが音読しても良い。)

(資料を読んだ後で、)

私たち大人は、わが子のしつけに一生懸命になるあまり、子どものすることに対して、怒ってばかりで自己嫌悪に陥いる、という方は多いのではないのでしょうか。特に、自分が急いでいる時に限って子どもはゆっくりしたり、普段やらないようなことでも「自分でやる！」と言ったりするとカチンとくることってありますよね。怒らないまでも、子どもが「自分でする」と言ったことに対して、つつい口を出してしまったり、ほとんど手伝ってしまったりすることは、よくあることなのではないのでしょうか。

しかし、子どもの「自分でしたい」「自分はこう思う」という意思表示が「いや!(嫌い・やらない)」という言葉や態度に表れていると考えると、心にも少し余裕が生まれますね。

ワーク3配付



そこで、ワーク3では、いやいや期をのりこえるために、子どもへの関わりとして実際に自分でできそうなことや気をつけていきたいことを探してみましょ。まずは、ワークシートに自分のアイデアを沢山書いていってみましょ。時間は〇分です。では、どうぞ。

(各自、ワークシートに書く。時間が来たら)

それでは次に自分で考えたアイデアを各グループで発表し合ってください。時間は〇分です。グループのリーダーの方、進行をお願いします。

グループの話し合いを見て回り、いくつかのグループに話し合いの様子を発表してもらう。数グループに発表してもらうことで、全体で共有できるようにする。

(出された意見をまとめながら…)

ありがとうございました。みなさんのお考えを聞いていると、「なるほど！」と思うことばかりでした。

先程お配りした資料にも書かれていますが、子どもの言動で腹が立っても、すぐに叱ったり、手伝ったりせず、少し見守ることができれば、「ずいぶん成長したな。」という新たな発見があるかもしれませんね。

< 補足説明例 >

「幼い子が気持ちを表現するのは難しい。」

「だから、代わりに親が言葉にしてあげる。」

一人でできるように、実際はうまくできなかつたり、やってみたいという気持ちから「できる。」と言ってみただけ実はぜんぜんできないことだったり…。でも「できたね。」って褒められたいから途中で「できない。」とは言えないし…。だったら最初から「いや！」「できな～い。」って投げ出してしまえ！って言うんですね。いろいろなことを考えて、子ども自身もきっと葛藤の毎日なのだと思います。

子どもがイライラして腹を立てていると思ったら、その思いに寄り添い、「やろうとしてできなくてイライラしたのね」と言葉にしてあげるといいですね。そして、「ママ(パパ)がしてあげてもいい？」と聞いてみます。「イヤッ！自分でする！」と言ったら、「じゃあ、待ってるね」と返してあげられるといいですね。こういうやりとりができると子どもはワアッと暴れたりはしないんですが、親も忙しくて時間がないときもありますからね。特に忙しいときに限って、「自分でする！」と言い張ったりしますよね。

そんな時は、「わかるけど時間がないの。」「帰ってからもう一度やっていいから、今はママ(パパ)の願いを聞いてね。」と、子どもが納得しなくても先に進まなければならない場合もありますよね。それでも、子どもの気持ちを聞いて寄り添おうという姿勢がないと、「ママ(パパ)はいつも自分の欲求を押しつけてぼくを従わせようとするだけ。」となってしまいます。

つまり、「こういうことなの？」と、子どもの思いを言葉にすることが重要なのです。幼い子どもは自分の思いをうまく言葉にできません。多少の言葉や物の名前を言えたりするけど、自分の思いや気持ちを言葉にするのはものすごく難しいのです。それができないから「ママ(パパ)のバカ!!」なんて言ってしまう。本当はそんなふうに思っていないのに、それしか言葉がないから言っているだけなんです。

それに対して大人が、「本当はこうしたかったの？」「これが嫌なのね。」と子どもの思いを言葉にして確かめて、「それはわかる。」「じゃあ待ってるね。」と共感しながら、子どもが納得できる道を探すというのも親と子のコミュニケーションの1つですね。

それでは、今日の感想を「ふりかえり(アンケート)」に御記入ください。

感想を記入してもらい、よければ発表してもらおう。

発表後、今日の学習をふりかえり(まとめ)、全体で共有する。



Ⅱ-3「子ども同士のトラブル・・・どう解決する？」

① 進め方

- ワーク1 子ども同士のトラブルを思い出し発表し合う。
 ワーク2 エピソードを読みロールプレイを行う。
 ワーク3 資料, ロールプレイをとおして思ったことを話し合う。

② 実践例



それでは今日は「子ども同士のトラブル・・・どう解決するの？」というテーマで進めていくわけですが、お子さんのトラブルについて話し合う前に、みなさんが子どもの頃をふり返って、どんな思い出、どんなトラブルがあったか思い出してみましょ。友達とのトラブル、兄弟(姉妹)ゲンカ、遊び場所、おもちゃ、おやつを取り合いなど・・・

それでは、みなさんが子どもの頃の思い出・・・グループで話し合ってください。では、司会の方よろしくお祈いします。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。ワーク2へつながる会話等に注目する。



(終了の合図)

どんな「思い出」「トラブル」があったかグループの様子を少し聞かせてもらいましょう。各グループの発表の方よろしくお祈いします。

(いくつかのグループに発表してもらう。)

ありがとうございました。そうですね、私にも思い出がありますが、遊ぶ道具の取り合いなど、トラブルにつながりやすいですね。そこで、ワーク2にうつります。



ではワーク2ですが、こんなエピソードがあります。

(エピソードを配り、エピソードを読む)

どこにでもあるような出来事ですが、みなさんがこのエピソードの保護者、タケシくん、タカコさんの保護者だったらどう関わりますか？それをそれぞれの役に分かれて、役割演技をしてみましょう。

- ・ショウくんのお母さん役
- ・ショウくん役
- ・ユリさんのお母さん役
- ・ユリさん役

まずは、ショウくんのお母さん役の方が、「ユリさんが乗っていたので、返しなさい！」を言って、その後は、それぞれ演技を続けてください。では、どうぞ。

※4人以上のグループの場合、役以外の方は、聞き役に回り、様子を見ていての感想を持ってもらうようにする。(4人以上のグループになるように人数調整を行う。)

「やだ、やだ、ぼくが乗る！」・・・「順番に乗ったらどう？」・・・「代わってあげなさい！」



グループの様子を観察する。時間がきたら、役を交代する。



(終了の合図)

どうですか？ うまくトラブルは解決できましたか？ 今度は役を交代してやってみましょう。お母さん役の人が子ども役に、子ども役の人がお母さん役になって役割演技です。準備のできたところからどうぞ。(グループの様子を観察する。)

(終了の合図)

どうですか？ 今度はうまくトラブルは解決できましたか？ 子どもたち2人は納得のいく結論になったのでしょうか？ 2人とも泣いてしまうようなことはなかったですか？ グループの様子を聞かせてもらいましょう。

グループの発表者に、グループでの様子を伝えてもらう。



(予想される反応)

- 「どうしても親の都合で『順番に使いなさい！』と命令するようになってしまう。」
- 「なかなか子どもが納得するように言ってやれない。」

等



(保護者の難しさに共感しながら・・・)

そうですね。子どもへどうか関わっていったらよいか・・・難しいですね。では、どう子どもたちと関わっていくのか・・・資料をもとに考えていきましょう。この資料から、参考になるようなことを探してみましょう。

(資料を配付し読む。)

この資料を読んで、先程のエピソードに出てきた、ショウさんとユリさんのお母さんは、どんなふうに子どもへ関わればよかったのでしょうか？グループで話し合ってみてください。

グループの話し合いを見て回り、いくつかのグループに話し合いの様子を発表してもらう。

(出された意見をまとめながら・・・)

ありがとうございました。みなさんのお考えを聞いていると、「なるほど。」と思うばかりでした。先程お配りした資料にも書かれていますが、「子どもたちはけんか(トラブル)をしながら学んでいくことが多い。けんかを止めさせることだけでなく、むしろ、今けんかをさせて子どもたちに学ばせることも大切なんだということでしょうか。大人はその必要な援助をしていくこと、けんかには入らない・・・ということですね。」

では、先程、グループで話し合われて気づいたことや、子ども同士のトラブルの場面で、これから自分にできることや気を付けていきたいことをまとめとして、今日の感想をご記入ください。

感想を記入してもらい、よければ発表してもらう。

発表後、今日の感想を含め、代表の方にまとめをしていただく。

Ⅱ-4「子どもは『生き生き』してる？」(4~5歳児)

①進め方

- ワーク1 子どもの『生き生き』していた場面を思い出す。
 ワーク2 『生き生き』できた理由について話し合う。
 ワーク3 実際にできることを考える。

② 実践例



それでは今日は「子どもは『生き生き』してる？」というテーマで進めていきます。先程、自己紹介の中で、みなさんのお子さん(お孫さん)と一緒にしたことを紹介していただきましたが、紹介をされているみなさんがとても楽しそうに、それこそ『生き生き』とお話をされていました。

それでは、自分のお子さん、お孫さんが『生き生き』していた場面、どんなことが思い出されますか？ 幼稚園での生活、おうちでの生活をしっかり思い出してみてください。それを『黄色い付箋紙』に1枚につき一つ記入してください。

(記入の時間を取り、ある程度書けたところで…)



では、みなさんの意見をグループの中で発表し合っていきましょう。付箋紙を模造紙に貼りながら、司会の方から時計回りに順番に出し合っていきましょう。同じようなものが出たら、『そうそう…』とか言いながら、まとめて貼っていくようにしてみましょう。では、司会の方からどうぞ…。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。どんな時に生き生きしているかを整理していけるようにアドバイスをする。

子どもたちの『生き生き』している場面がたくさん出てきましたね。いつもこうやって、子どもたちが『生き生き』していると、親として、大人としてとても嬉しくなりますね。では、どうして、なぜ、子どもたちは『生き生き』とできたのでしょうか？ みなさんで、模造紙に貼った付箋紙にネーミングをしながら話し合ってみてください。

(グループの話し合いの様子を見て回る。)

では、グループの中で話し合ったことを、全体へ発表してください。

*発表の内容をまとめながら、次のワークへとつなぐ。また、発表の時間がなければ、ファシリテーターが、いくつか紹介する。



(資料を配付して)

みなさんが今『生き生き』できた理由を考えてくださいましたが、とても大切なことやできるようにするためにわたしたち大人が、親として、保護者としてできることがたくさんありそうですね。

今みなさんに配った資料を読んでみましょう。

(資料を読む)

どうでしょうか？『生き生き』した活動を促すポイントって、どんなことでしょうか？

*参加者の考えを発表してもらったり、ワーク2での発表をもとにしたりして、いくつかのポイントを整理する。

例 *親がルールを敷かない。

*子どもが自分で考える。

*家族は見守る。

*失敗の経験も合わせて、これから先を考えていく。 など

いくつかのポイントが発表されましたが、実際、子どもへどう関わっていったらよいか・・・難しいですね。では、どう子どもたちと関わっていったらよいか、まず、自分でできることを考えていきましょう。

今回は、ピンク色の付箋紙に一つずつ記入してください。

(記入の時間を取る。なかなか記入できない人へ、ポイントにそって考えられるようにアドバイスする。)

それでは、グループ内で発表してもらいます。司会者の方から順番に模造紙に貼って意見を言ってください。同じような意見を書いている方がおられましたら、その近くに貼って、意見を交換しましょう。それではお願いします。



グループの話し合いを見て回り、いくつかのグループに話し合いの様子を発表してもらおう。

(出された意見をまとめながら・・・)

ありがとうございました。みなさんのお考えを聞いていると、「なるほど。」と思うばかりでした。先程お配りした資料にも書かれています。『子どもたちの考えをしっかりと大人が見守り支えていくこと』が大切ですね。

今、ご自分で書かれたこと、グループ内で意見交換したことなど、まず、無理をせず、できることから進めていけるといいですね。



感想を記入してもらい、よければ発表してもらおう。

(代表の方がいらっしゃれば)発表後、今日の感想を含め、まとめをしていただく。

Ⅱ-5「子育てのイライラとうまく付き合う親になろう」

① 進め方

- ワーク1 子育てのイライラ感情を共感し、平静に対応できることに気づく。
 ワーク2 自分のイライラ経験を出し合い、全体で共感する。
 ワーク3 イライラ感情のコントロール方法を全体で共感・共有する。

② 実践例



「いつも笑顔で子育てしたい」・・・親ならみんなそう思っていますよね・・・でも、することも考えることも多くて、ついイライラしてしまうこともありますよね。

(自分のイライラ体験等を入れるとよい)

今日は、そんな子育てのイライラとうまく付き合っていくことをみんなで考えていきましょう。

では、こんなエピソードを紹介します。

(エピソードを読む。)

さあ、みなさん・・・この後、子どもたちとお父さんはどうしたと思いますか？
 少し、グループで話し合ってみてください。

(グループの話し合いの様子を観察し、出てきた意見を採り上げながら・・・)

そうですね。A子さんのイライラ・・・分かりますよね。早くごはんを食べさせたいのに、夫は何もしてくれない。子どもも言うことを聞かない・・・つい怒ってしまう・・・

(自分の体験談も含めながら・・・)

まさに、どこにでも誰にでもありそうなことですね。

では、この時、A子さんが「あっ！今イライラしている」と、自分のイライラ感情に気づいたとしたら、どのような対応ができると思いますか？

グループで話し合ってみてください。



グループを周り、話し合いの様子を観察する。話し合いで出た意見をグループごとにかくつか紹介してもらう。

ありがとうございました。今発表にもあったように、自分がイライラしている感情を認めることができると、案外平静に対応できるものかもしれませんが、現実・・・なかなか難しいことですね。この資料をみても子育てにはイライラがつきものです。(資料1)





では、参加者のみなさん方のイライラ体験…お子さんにイライラして、ガミガミ怒ってしまうことはありませんか？それはどんな時ですか？それを今日お配りしている、赤の付箋紙に、1枚に一つ…書いてください。時間は〇分間です。たくさんある方は、付箋紙を何枚でも使ってください。では、どうぞ。

記入の様子を観察する。

では、そこまでにします。これから、グループの中で、順番に発表してもらいます。発表した付箋紙は、模造紙に貼っていただき、よく似た意見には、「私も…」と言いながら、仲間分けしながら貼って行ってください。では、司会の方よろしくお願ひします。

(予想される反応)

- 注意しているのにすぐに直そうとしない。(いくら言っても直さない。)
- 平日の朝ごはん前
- 自分が用事をしないといけない時に、ベタベタやってきた時
- 朝ごはんを食べるときに時間がかかりすぎる
- 急いでいてもマイペースでまわりに合わせてくれない

等



グループの意見を発表してもらおう。



ありがとうございました。共感できる「イライラ」がたくさんありましたね。やはり、みなさん同様に、イライラ感情を持っている…ということがおわかりいただけたと思います。でも、そのイライラを爆発させないために、みなさんはどうされているのでしょうか？ いつもいつも爆発させてはたまりませんよね。

(自分の方法を紹介したり、参加者数名にインタビューをしたりしてから…)

では、自分のイライラ感情のコントロール方法…自分はこうしているよというのを、今度は青い付箋紙に書いてください。これも、1枚の付箋紙に一つです。

では、どうぞ…

記入の様子を観察する。

では、そこまでにします。これから、グループの中で、順番に発表してもらいます。先程と同じように、発表した付箋紙は、模造紙に貼っていただき、よく似た意見には、「私も…」と言いながら、仲間分けしながら貼って行ってください。では、司会の方よろしくお願ひします。

(予想される反応)

- リラックスタイムをつくり、お茶を飲む
- 集中できることをする(料理とか)
- 好きな音楽を聴きながら歌う♪
- 『次回からは頑張ろう』と思う！ 新しい目標を考える
- 「そんな時もあるさ」と思う
- トイレに入って、一人になる

等





グループでは、たくさんのコントロール方法が出ていたようです。それでは、どんなコントロール方法があるか・・・気になりますよね。では、自由にいろいろなグループで出た意見・・・模造紙に貼られた意見を見て回る時間を取ります。そのときに、「あっ、これいいね！」というもの、参考になるもの、取り入れてみたいなあ・・・という方法に、「いいねシール(配布している赤シール)」を付箋紙のあいているところに貼っていただきます。時間は〇分程度です。もしシールがなくなった方がおられたら、取りに来てください。では、どうぞ！

グループの意見を見て回った後、席に戻ってもらい、参考になったものを、数人に発表してもらおう。



(資料2を紹介し・・・子育てはイライラすることも多いが無理をせずうまく付き合いながら楽しむよう伝え、まとめとする。)

【まとめの例】

今日は、みなさんで、子育てのイライラとしてしまう感情とうまく付き合いに行くには・・・ということを考えました。

でも、人間だから感情をコントロールできないこともあります。つい、感情にまかせ、イライラを、怒りをぶつけてしまうことも・・・あります。

(資料配付)

子育ては、イライラすることの方が多いかもかもしれませんが、決して無理をせず、うまく付き合いながら、楽しむことができればいいですね。

子育ての方法は人それぞれで、これが正解というものはありません。今日みなさんが、お互いに感じたこと、考えたことを自分の子育てに生かしていただければと思います。

研修の最後に、事前に参加者の子どもたちの日々の学校園での写真等をスライドにし、曲(例:「きみのママより」初田悦子)に合わせ流すなどすると、効果がある。

また、絵本の読み聞かせ(「お母さんがお母さんになった日」「お父さんがお父さんになった日」童心社 作:長野ヒデ子)などを行ってもよい。



【エピソード】

【エピソード】

今日は日曜日、A子さん家族は外出して帰りが遅くなってしまいました。Aさんが忙しく夕食を作っている間、子どもたちは部屋中におもちゃを出して遊んでいます。お父さんは横になってテレビを見ています。夕食も遅くなってしまいイライラしているAさんは、子どもたちに「早く片付けなさい」と怒鳴ってしまいました。

※参加者の家庭環境等に配慮し、次のエピソードを使用することも考えられる。

今日は日曜日、Aさん家族は外出して帰りが遅くなってしまいました。
Aさんが忙しく夕食をつくっている間、子どもたちは遊んでいます。妹は部屋中におもちゃを出して遊んでいます。お兄ちゃんは横になってテレビを見ています。夕食も遅くなってしまいイライラしているAさんは、子どもたちに『早く片付けなさい』と怒鳴ってしまいました。

【資料2】

○もしも怒りをぶつけてしまったら

勢いに任せて子どもにイライラをぶつけてしまったから、あとで反省・・・なんてことよくあります。そんな時は、子どもの寝顔に「ごめんね」とつぶやくのではなく、起きている間にちゃんと謝りましょう。

大丈夫！ 次のようなステップで自分の気持ちを伝えればうまくいきます。

- ① まず、謝る→②自分の気持ちを伝える→③怒りをぶつけてしまったことを具体的に謝る→④子どもがどういう気持ちだったかを聞く

(山崎洋実「ママでいるのがつらくなったら読むマンガ」P34 主婦の友社 2010年から)

○スリスリの儀式&魔法の言葉がけ

寝る前に、お子さんをぎゅっと抱きしめて、スリスリしてあげましょう！ 頭のとっぺんから手の指先にかけて「気持ちいい～」と感じるツボがたくさんあるそうですから、頭から肩、腕、手の指先へと、優しくなでてあげましょう。夜寝る前に親子でスキンシップの時間をとると、子どもは1日の疲れをリセットすることができます。

そして、もうひとつ。スリスリしながら「私の子だから、大丈夫」とささやいてください。人生には楽しいことも、つらいことも起こります。苦しい時、逃げ出したいくなる時に、一番役立つのは「私、大丈夫！」という自分を肯定する気持ち。あなたのお子さんが、窮地に立たされたときにこの言葉を真っ先に思い出してくれるよう、魔法の言葉をたくさんかけてあげましょう。

毎日できなくても大丈夫、週1回でもかまいません。スリスリできない日は、魔法の言葉だけでもOK！ 無理をしないことが大切です。



(山崎洋実「ママでいるのがつらくなったら読むマンガ」P66 主婦の友社 2010年から)



Ⅱ-7「そういえば自分も...考えよう 認めよう ～子どものいいところ・気になるところ～」

①進め方

- ワーク1 自分が子どもだった頃、「ほめられたこと」「注意されていたこと」を思い出し、話し合う。
 ワーク2 子どもの長所と短所を出し合い、共有する。
 ワーク3 リフレーミングについて知り、短所も見方を変えれば良い面として捉えられることを実感する。
 ワーク4 学習をふりかえり、子どもの成長を見つめるために必要な姿勢について話し合う。

② 実践例

子どもたちには様々な個性があり、発達の状態、成長のスピードも一人ひとり違っていています。自分の子どもだけを見ていると「ああ～なんで～」と気になるところがあるかもしれません。今日はみなさんの子どもの頃のことを「そういえば自分も…」と思い出していただき、お子さんの「いいところ・気になるところ」を語り合います。

では、まずワーク1です。みなさんが子どもの頃「いいところ」としてほめられたことや言われたことをピンク色の付箋紙に、また「当時気にしていたところ」「直しなさいと注意されていたこと」を水色の付箋紙に、1枚につき1つ、1分ぐらいで思い出すかぎりたくさん御記入ください。

付箋紙に記入する。

・いいところ(例)

まじめ 几帳面 楽しい 人なつこい

・気にしていた、注意されていたこと(例)

人見知りが激しい 忘れ物が多い 1回で言うことが聞けない
自分勝手

そろそろよろしいでしょうか。グループ内で、付箋紙を似たものの近くに固めて貼りながら、共有してみましょう。(司会の方、お願いします。)

グループの様子を見て回る。

(5分程度時間を取り、)いかがでしょうか？

(反応例)・「いいところ」より「注意されていたこと」の方が多い。

・同じことで注意されていた。

・「いつも〇〇して」と決めつけされていたのが嫌だった。

では、今度はお子さんの「いいところ」をピンク色の付箋紙に、「気になるところ」を水色の付箋紙に1枚につき1つ、2分ぐらいで思い出すかぎりたくさん御記入ください。



そろそろよろしいでしょうか。グループ内で、付箋紙を似たものの近くに固めて貼りながら、共有してみましょう。(司会の方、お願いします。)

グループの様子を見て回る。

(5分程度時間を取り、)いかがでしょうか？

(反応例)・「いいところ」より「気になるところ」の方が多い。

- ・自分(あるいはパートナー)の短所と同じところが多い。
- ・注意することばかりで、子どもにとっては嫌かもしれない。



子どもが成長していく上で「これは注意して直していかないと！」思い、「気になるところ」ばかりに目が向きがちですが、同じ意見が多いものは子どもの特徴ですよ。

今、出されたみなさんの「いいところ」と「気になるところ」、そしてお子さんの「いいところ」と「気になるところ」をご覧ください。何か気が付くことはありませんか？

(少し間を取って)

気になるところで挙がっている「おしゃべり」は「余計なことを言う」という短所かもしれませんが、見方を変えると「言語能力があり誰とでも気軽に話せる。社交的。明るい。」という長所となりますよね。「気になるところ」・短所は、長所の裏返しかもしれません。

リフレーミングという言葉が聞かれたことはありますか？「心理的枠組の変換」という意味で、性格や行動の特性に良い悪いはなく、リフレーミングすることで、自他の良さを見出し、子どもにとって大切な自尊感情を育むことができます。

では、ワークシートを御覧ください。ワークシートにいくつか言葉が載っています。グループで相談しながら長所にリフレーミングしてみましょう。

(※フレーミングのワークシートに相談しながら記入する。)

(※リフレーミングのワークシートを使用せず、短所を長所に言い換えるカードゲームを使用してもよい。)

いかがでしょうか？

リフレーミングした言葉を発表してもらおう。

ありがとうございます。「なるほど！ そう考えればいいんだ。」と目から鱗が落ちたような感じがします。それでは、ワーク2で出た短所を長所にグループの中で二人組になって、お互いに言い換えてみましょう。まず、ワークシート「私の短所」のところにみなさんの最大の短所を2つ御記入ください。

(ワークシートに記入する。)

では、二人組でワークシートを交換して、短所を長所にリフレーミングしてみましょう。こんな風にやってみてください。

(例)A「私は自分の『人にいやと言えない』ところが嫌いです。」

B「私はAさんの『人にいやと言えない』ところが好きです。なぜなら、『人にいやと言えない』ことは、自分より人の気持ちを大事に考えようというやさしさの現れだからです。私はAさんのそういうところが好きです。」

A「Bさん、ありがとう。」(交代して対話)

それでは二人組でどうぞ。

グループの様子を見て回る。



ありがとうございました。自分では短所と思っていたことを「いや、それは長所だよ。」と言われると、とてもうれしいですね。

では、お子さんのことで一番気になる短所はどんなことでしょうか？ワークシートに御記入ください。ワークシートに記入できたら、それを長所にリフレーミングしてみましょう。



グループの様子を見て回る。

リフレーミングできたでしょうか。今日の学習の感想や子どもの成長を見つめるために必要なことをワークシートのふりかえりのところへ御記入ください。

記入後、何人かに発表してもらおう。子どもの成長を見つめるためにどんな姿勢が必要か話し合う。

(反応例)・短所だと思っていたことも見方を変えれば、長所になることが分かった。

- ・少しでもできること、できるようになったことを認めていきたい。
- ・あきらめずに声をかける。
- ・まだ()才。(子どもの年齢を思い出す。)
- ・信じて待つ。



お子さんの成長を見つめるために、今ある子どもをまるごと認めることが大切なんです。そして、お子さんに、短所ばかり言うのではなく、できるようになったことに目を向け、長所につながるような伝え方に気をつけていきましょう。自分のことを振り返っても、一度注意されたらすぐ直す・できるということは少ないです。根気強く関わっていきましょう。

子育ては、みんな苦勞しており、みんなで気軽に話し合えることが楽しく、子どもにもよい影響をおよぼします。

目の前にいる子どもたちをありのままに理解し、一人ひとりに合わせた対応を大切に、子どもたちの育ちを温かく見守っていきましょう。

(気になっていることや心配に感じている子どもの情報については、学校園やその他にも相談することができる機関があることを知らせる。)



ワークシート  **リフレーミング** 

1 おしゃべり→	例：言語能力があり、誰とでも気軽に話せる。社交的、積極。誰とでも仲良くなれる。	6 無口→	
2 過保護・過干渉→		7 従順→	
3 おとなしい→		8 感情的→	
4 あきっぽい→		9 時間にルーズ→	
5 気が小さい→		10 引っ込み思案→	

私の短所
1：

2：

子どもの短所：



Ⅱ-8 「本を通して親子でコミュニケーション ～読み聞かせ、どうしてる?～」

①進め方

- ワーク1 エピソードをもとに、子どもへの読み聞かせで困ったことがあることを共有する。
 ワーク2 子どもへの読み聞かせで困ったことや気になること、良かったことを付せん紙に書いて話し合う。
 ワーク3 読み聞かせの疑似体験をする。

② 実践例



子どもはお父さんやお母さんや家族の声が大好きです。親子で本を読み合う時間は、親子の大切なコミュニケーションの時間でもあります。親子で楽しく本を読み合うコツについて、これから、みんなで考えていきます。

こんなこと、ありませんか？

エピソードを読む。

あなたが、Aさんだったら子どもたちへどんな声かけをしますか？「私だったらお姉ちゃんのミユキには…、コウジには…」と、思われたこととお話ください。
 5分ぐらい時間を取りますので、グループでどうぞ。

(反応例)

- ・私もAさんみたいによく言ってる！ そう言うよね。
- ・「この本、好きなんだね。」と認める。
- ・「その本もいいね。この本もおもしろいよ。」と自分が子どもに読んでほしい本を薦める。

(5分程度時間を取り、グループの中で一通り話し終えたところで)いかがでしょうか。(何人かに発表してもらい、出た意見を拾う。)(「(出た意見)」など、なるほどと思いました。

【参加者がAさんの立場で話し合っている場合】

図書館でということではなく、みなさん、普段、御家庭でお子さんへの読み聞かせや一緒に本を読み合うときに、困ったことや気になることはありませんか？

【参加者が御自身のことやお子さんのことをどんどん話し合っている場合】

「うわあ、私と同じ！」と図書館でのことだけでなく、御家庭での読み聞かせで困ったことをどんどん話をされていましたね。今、話をされたように、御家庭でお子さんへの読み聞かせや一緒に本を読み合うときに、困ったことや気になること、ありますよね。





困ったことや気になることを水色の付せん紙に、逆に良かったことをピンク色の付せん紙に、一つのことを1枚に思いつくままだんどん書き出してください。用意はいいでしょうか？3分ぐらい時間を取りますので、どうぞ。

付せん紙に書く様子を見て回る。

そろそろよろしいでしょうか。書いたものを出して、グループの中で同じ意見の方は「私も同じで」と横に貼りながら、そんなときどうしているか話し合ってください。10分ぐらい時間を取りますので、どうぞ。

グループの様子を見て回る。
困ったことや気になることに対してどう対処しているかも出してもらおう。

(反応例)

【困ったこと・気になること】

- ・気に入ったページから動かない。
- ・自分からは本を読まない。
- ・本の内容よりも、本の読み方・声色を面白いがる。
- ・本を独占したがって他の子と一緒に見るができない。
- ・先のページが読みたくて、次々とめくってしまう。
- ・読んでいると親の方が眠くなる。
- ・次々と本をもってくる。
- ・登場人物になりきりすぎて読むので疲れる。
- ・家に本があふれる。

【良かったこと】

- ・文章で映像が浮かぶようになった。
- ・本を暗記した。
- ・長い文章が読めるようになった。
- ・優しい子どもになった。
- ・本に出てきた遊びを親子で楽しめた。
- ・機嫌がいい。
- ・日常生活と本の内容がリンクするようになった。

活発な話し合いをありがとうございました。どんな意見が出たか紹介してもらってもいいでしょうか。(多かった意見とその対処法を発表してもらおう。)

皆さんのお話を聞いて、「同じ本ばかり」で気になる、「あまり読み聞かせをしていない」ということについては、大丈夫です。資料をご覧ください。

(資料を配付し、同じ本でも大丈夫、物語にこだわらなくてよいこと、就寝前でなく親子の時間が取れるときでよいこと等)を確認する。

子どもと本を読み合うことで「親子のコミュニケーションが取れる」という良いこともあるんだなあと改めて感じました。「文字を覚えさせるため」とか「夜、寝る前に必ずしなければならない」ということではなく、「読み聞かせ」は親子で楽しい時間を共有することが大切なんですね。



読み聞かせて人気のある本を何冊か持ってきました。どうぞ手に取ってご覧ください。
(※参加者の様子を見ながら、A:グループの代表が読み聞かせをするか、
B:進行役が読み聞かせをするか 決める。)

A「みなさんの気になる」本をグループの中でどなたかお一人、声に出して読んでいただけますか。

B「私が子どもと一緒に読むのが大好きな本」を読んでみますね。

読み聞かせの疑似体験をする。

A「ありがとうございました。急に読み聞かせをしていただき感謝しています。大人の方へ読むのは難しいのですが、よく読んでくださいました。」

A・B「いかがでしたか。その本や読み聞かせをしてもらった感想をグループでお話ください。」

グループごとに感想を交流する。

(感想を拾いながら)気持ちがほっこりしますよね。

絵本の読み聞かせは、「寝る前に必ずしなければならない！」というのではなく、親子で絵本を通じて一緒に遊んだりリラックスしたりする過ごし方の一つ、親子の触れ合いタイムとして行ってほしいと思います。

下心があって読み聞かせをすると失敗することが多いです。電車図鑑を持ってくる子には電車の名前など、そのまま読んであげればいいです。図鑑のつながりで電車が登場する絵本を選ぶこともできます。子どもが本を持ってくる時は、ただ本を読んでもらいたいということではなく、親に振り向いてもらいたい(かまってもらいたい)時、ということもあります。親子で本を仲立ちに「楽しい時間を持つ」ということが一番大切です。この経験が、やがて子どもが成長し思春期になった時にも本を仲立ちに、よい関係性を保つ可能性があります。

どんな本を読もうか悩んだときは、ぜひ近くの図書館へどうぞ！図書館には司書の方がいて、相談に乗ってくださいます。また、いろいろな本を無料で借りることができます。いろいろな種類の本もあります。

本日は皆様の貴重なお時間をいただき、「読み聞かせ、どうしてる？」と学習を進めてきましたが、御自身の中で、なるほどと感じたこと、これからやってみたいと思うことなど、心に残っていることはあるでしょうか。

学習を振り返り、感想を書く。

(感想例)

- ・子どもたちに負けず、私も本を楽しもうと思いました。あと、イライラして子どもを叱ってしまう前に絵本を読む心の余裕を作れたら♡
- ・「読み聞かせしなきゃ」という義務感ではなく、子どもとのスキンシップの一つとして、親も一緒に楽しめばいいんだと思いました。

子育て(孫育て)は、みんな苦勞しており、みんなで気軽に話し合えることが楽しく子どもにもよい影響を及ぼします。本日のような何でも言い合える相談できる仲間を大事に、これからも楽しく子育てを続けていただきたいと思います。ありがとうございました。



Ⅱ-9 「自分でできたよ！うれしいな ～入学までに応援できること～」

①進め方

- ワーク1 小学校入学に向けて、わが子の成長を実感するとともに、不安に思うことを振り返る。
ワーク2 子どものスムーズな入学に向けて、保護者としてできることについて考え、全体で共感・共有する。

② 実践例

ワーク1



お子さんももうすぐ小学1年生。小学校入学に向けて、親としてはお子さんの成長を実感したり、これから始まる新しい生活に期待を抱きつつも、「わが子は大丈夫かしら。」「どんな準備が必要かしら。」といった不安や戸惑いの気持ちを感じてしまうことはありませんか。

今日はお子さんと一緒に小学校入学を楽しみに迎えることができるよう、子どもへの関わり方をみなさんと一緒に考えていきましょう。

小学校の一日を示した絵をご覧ください。

(資料①「小学校の一日」の絵を提示し、説明する)

小学校では、お勉強がはじまりますね。席について先生のお話を聞いていますね。でも、小学校の生活はお勉強だけではありません。朝、通学班で登校しますね。学校に着いたら、持ち物の整理を自分でします。トイレに行ったり、体育の時は着替えをしたりしますね。休み時間、お友達と遊んで…。お昼は給食です。配膳も自分達でするんですね。掃除もみんなでする。

今のお子さんの様子を思い出してみましよう。

「このことは小学校に入学しても大丈夫だと思うわ。」ということピンクの付箋に、「これは少し不安に思うわ。」ということを青い付箋にそれぞれ書き出してみましよう。お机の付箋紙、1枚に1つ…書いてください。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。



では、付箋に書いたことを模造紙に貼り出しながらグループ内で発表してもらいます。

(付箋の貼り方のモデル提示)

このように模造紙の左半分に「このことは大丈夫だわ。」と思われることを書かれたピンクの付箋を、右半分に「このことは少し不安に感じるわ。」と思われることが書かれた青い付箋を貼って交流をしてください。貼っていくうちに、「ああこれ似ているなあ。」と思うものがあったら関連しているものの近くに貼ってみてください。

それでは、お一人ずつ貼り出しながら発表し、交流を始めてください。


(予想される反応)

<入学しても大丈夫かな>

- 仲良く通学できる。
- 日頃から手伝いをするから、給食準備は大丈夫だと思う。
- トイレの習慣はついているので、大丈夫かな。
- 服は自分で着替えができる。

<不安に感じること>

- 友達と仲良くなれるかな。けんかせずに過ごせるかな。
- 食べ物の好き嫌が多く、給食を残さず食べることができるか。
- 和式のトイレが心配。(我が家は洋式なので。)
- 授業の45分間、ちゃんと席についていられるか。集中力が持続するか。



入学するに当たって、「不安だなあ。」という気持ちが先立つかもしれませんが、「安心できるなあ。」というピンクもけっこう出ていますね。
「安心できるなあ。」ということも出してみるとけっこうあったのではないのでしょうか。


今ちょうど5歳児の子どもたちは、どんな感じなのかなあということをまとめた資料を一緒に見てみたいと思います。

資料②「子どもと時間」の説明をする。

5歳児という今のみなさんのお子さんの年齢は、生活の中の大きい流れを捉えることができる力が実はもうあるんです。知らず知らず、その力が身について一日の大きな流れが分かっているから、もっと遊びたいけど片付けないといけなとかこれをやってからこっちをしようとか、そういうことを考えられる年齢になってきているってことなんです。だからそこを応援してあげると、見通しをつけながら生活していくことができるようになるんですね。

学校は次々と時間割や行事が組まれているので、その大きな流れを見通すというのを練習するのは今なのかなと思います。そして、その中で昨日、今日、明日もだんだんつながっていきます。だから、「明日のためにこれやっておこう。」など、昨日やったことが今日につながっているっていうことも分かるようになってくるのだと思います。ちょっと遠い目標をつくって、それに向かって計画的にするということもできるようになっていきます。親として、見守りながら、少しだけ手助けしてあげるのはどうでしょう。

資料③「幼児教育段階で身に付けてほしいこと」の説明をする。



これは、小学校に入学するまでに子どもに身に付けさせておいてほしいと小学校の先生が願われているものです。つつい私たちは「ひらがなを教えておかないと。」とか、「計算どうかなあ。」とか、学習面が心配になるのですが、グラフを見てみると「読み書き」は2%しかないんです。

意外ですよ。あいさつ、返事、自分の気持ちを伝えるとか、お話が聞けるとか、身の周りのことができるなどといった生活がスムーズにできるような練習をしていた方が、学校で困らないんだよってことですよ。

また、これらが出来るようになるっていうのは当たり前のことではなく、子どもにとっては毎日、一個一個積み重ねていくことで、身につけていくことだと思います。だからこそ、一個一個「できたね。」「できたね。」と言葉にしてあげて、頑張りを親子で積み重ねていけるといいですね。

ワーク2



みなさんは今から半年ほど小学校入学までに時間はありますが、それまでにお子さんにどんな関わりをしてあげられるでしょうか。

今度は、黄色の付箋に入学まで「どんなことができるかなあ。」ということを書き出していってください。お家でできることもあるでしょうし、お友達に協力してもらいたいこともあるかもしれませんし、家族の協力がいるかもしれません。そんなことをいろいろ考えてみて、また付箋1枚につき1つ書いていってください。後で全体で模造紙に貼りながら交流していきたいと思います。

記入の様子を観察する。



よろしいでしょうか。

だいたいみなさん、何枚かずつ書いてくださったので、グループで、お互いに考えたことを出し合いながら、アイデアを持ち寄りたいと思います。

先ほどの模造紙をそのまま、使ってください。

全体にあいているところ、どこに貼っていただいてもよろしいです。「これに関連しているかなあ。」と思うものがあったら、関連しているものの近くに貼っていってください。

それでは、今から黄色の付箋を出し合って交流していきましょう。

グループで話し合いの様子を観察する。

(予想される反応)

- 朝起きたら、おはようのあいさつから始めようと思う。
- 時計を見ながら(読めなくても)生活する習慣を身に付けさせる。
- 子どもと一緒に掃除をしてみる。
- できないことを一緒に繰り返す。少しずつの成長を大事に声かけをする。
- あなたのことが「だいすきよ!」とさりげなく伝える。
- 学校に入るとこんなことができるよと前向きなことを伝えて、親子で楽しみに過ごす。
- 自分からできるように見守る。待つ。



話し合いがなかなか続かないグループへの支援



全員貼り出せたところは、具体的にどんなふうにしていったらいいかなということを話し合ったり、解決できていないことをみんなで一緒に考えたりなどしてみてください。



それぞれのグループで、「あっ、これいい案が出たなあ。」というのがありますか。いくつか後で紹介してほしいなあと思うので、どれを紹介するかみんなで相談しておいてください。



各グループの発表は終わってでしょうか。どんな意見が出たか紹介してもらってもいいでしょうか。

全体へ共有し、子どもへの関わりに対しての理解を深める。



ありがとうございました。
それぞれのグループでいろいろな関わり方が出されました。

資料④「5歳児 就学に向けてのかかわりと配慮」を説明してまとめとする。

就学に向けては、早寝早起きとか、生活リズムなど、ちょうど見直すよい時期です。たとえば着脱とか清潔とか、そういうことを自分でやっていくようになるのですが、自発的にしていくことができるように普段の生活の中で工夫してあげられたらと思います。「言われてする」というのではなく、「次はこうした方がいいからこうする」というようになれる時間がちょっとずつ増えていったらいいなと思います。

でも、それに対して、できたかどうかだけで評価するのではなく、できるようになるまでに一生懸命頑張っていることや、試行錯誤しているところをみてあげて、応援してあげることができると子どもたちは自信がつくのではないのでしょうか。

こうしないと学校は入れないよとか、つつい焦ってしまって、言いがちになることもあるのですが、そうなる子ども自身、不安がよけいに大きくなってしまわないので、楽しいことをいっぱい伝えてあげられたらいいと思います。

そして、不安が強いお子さんには、その不安に寄り添いながら、「不安だよ、知らないところに行くのだからね。だけど、きっと面白いこともあるよ。」というように楽しい学校生活につなげてあげられたらいいなと思います。

また、困ったときに自分の気持ちを先生とか、お友達に言えたらいろんなことが解決することがあります。自分の気持ちを伝えることができるようになるために、お家の中での会話も大切にしたいです。家庭での会話が自分の思いを相手に伝える練習にもなるのではないのでしょうか。



今日は短い時間だったのですが、みんなで一緒にお話できて、少し不安が和らいんだり、なにかしらヒントが得られたりしたのではないかなと思います。

みなさん、ワークシートのふりかえりの欄に今日、この学習に参加してみてよかったなあ、参考になったなあと思うことを記入してください。

記入の様子を観察する。



はい、だいたい書けましたでしょうか。

今、みなさんに書いていただいた感想をもとにグループの方達に今日の自分が感じたこと、気付いたことを伝え合う時間にして、本日のワークを終わりにしようと思います。

一人1分以内でお願いできればと思います。

では、今日の感想をグループの中で伝え合ってください。

ふりかえり(感想)のグループ交流をする。



はい、ありがとうございました。

みなさんそれぞれ感じたことを言葉にさせていただきました。

その中で、「ああ、自分だけじゃないんだな。」とか、「みんなと一緒に話せてたくさんいろんなこと気付いたな。」というような声があちらこちらから聞こえてきました。

今日、全部のことが解決できたわけではありませんし、一人一人の課題もあるとは思いますが、楽しみも膨らんできたのではないのでしょうか。

このように親同士でつながっていくような機会が、小学校にあがっても、学級懇談など、いろいろあります。そういう場も大切にさせていただいて、どんどんみんなできながっていけたら、わが子にとっていい知恵がたくさん得られると思います。

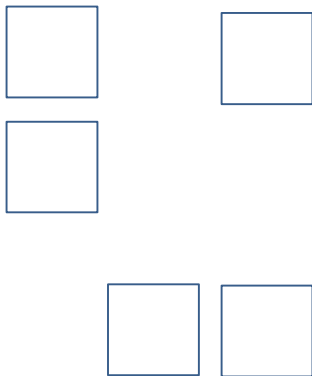
ぜひ、このような場を大切にさせていただけたらと思います。

また、学校の先生も「気軽に相談してほしい。」と思ってくださっているのです、遠慮せずに先生とのつながりもつくっていただけたらいいなと思います。

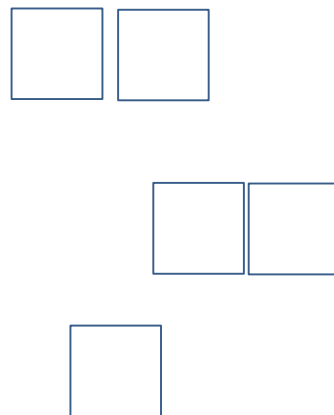
今日は就学前の忙しい時期にもかかわらず、この場に参加してくださって、ありがとうございました。

【 付箋の貼り方のモデル例 】

まあ、大丈夫



ちょっと、不安



Ⅱ-10 私の子育て、これでいいの？

①進め方

～開かれた子育て関係づくり～

- [ワーク1] 子育てに関する自分と他者との考えの相違に遭遇し、戸惑ったときのことを想起する。
 [ワーク2] 対立する子育ての価値観に触れ、自分がどちらを選択するかを考える。
 [ワーク3] 自分の意見がどのように揺らいだかを客観的にふりかえり、人は様々な要素から影響を受けて価値判断をしていることに気づくことで、他者の意見を受容する大切さに気づくことができる。

② 実践例

まずは、自己紹介をしましょう。今日、この会で呼んでほしい名前(ニックネーム)を付せん紙に書いて胸(名札)に貼ってください。マジックを使ってよく見えるように書きましょう。

自己紹介では次の3つのことを話してください。①呼んでほしい名前 ②趣味 ③子育てについての知識や情報をどうやって手に入れているか、入手先。(①②③については、ホワイトボード等、全体から見えやすいところに表示する)

はい、それでは、皆さん、お互いに胸に貼った名札を見てください。名前が一番長い人は誰ですか。手を挙げてください。その方から自己紹介をします。あとは時計回りでいきます。それでは始めます。1人1分で自己紹介をします。用意はいいですか。用意、チン！

【導入】

皆さん、毎日の子育て、本当にお疲れ様です。家事に加えて、仕事をされている方、またご両親の世話などをされている方など、忙しくてなかなか子育てについて考える時間がないと思いますが、今日は子育てについて皆さんと一緒に考えていければと思っています。

さて、参加者の皆さんには今日の話し合いに際して3つの約束をお願いします。(3つの約束を掲示し、読み上げて確認する)「平等」「尊重」「秘密」です。特に、秘密を守る事をお願いします。あの人はこんなことを言ってたなんて他人に言いつこなしですよ。今日のニックネームも、もちろん秘密です。

今日は、『私の子育て、これでいいの？』というテーマで進めていきます。さっそくですが、皆さんに質問です。私がこれからお聞きすることに「そうだ」と思ったら手を挙げてください。

- ①「私の子育てはうまくいっている」
- ②「子育てで迷ったことがない」
- ③「誰にも教えてもらわなくても、子育てはできる」

はい、ありがとうございます。少し手を挙げにくかったでしょうか。心の中で「そうだ」と思っている方はいらっしゃると思いますが、今の感じだと、皆さんの子育てはうまくいかず、迷うばかりで困っているという現状ですかね。

では、ズバリお聞きします。「私の子育て、これでいいの？」とよく思う方は手を挙げてください。

【多い場合】:やっぱり皆さん、いろいろと悩みがあるようですね。

【少ない場合】:皆さん、実はあまり悩まずに子育てをされているんですね。

今は悩みや迷いがなくても、いつ来るか分かりませんから、今日は「私の子育て、これでいいの？」というテーマで、皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

【ワーク1】

そこで、さっそくワーク1に入ります。(用紙を配る)子育てに関して、自分の考えと他の人との考えが違って、戸惑った経験はありませんか。思い出して書いてみましょう。(例を読む)そのとき、あなたは どう思ったかも合わせて書いてください。



記入の様子を見て回る。(ここで考える時間はあまりとらない、3分程度)

では、今書いたことをグループ内で発表していきます。順番は、先ほどの自己紹介で2番の方からです。これも、1人1分をお願いします。時間が余ったら合図があるまで自由にお話してください。



(予想される反応) ・食事やおやつについて ・ゲームについて ・服装について
・髪型について ・習い事について ・生活リズムについて ・おもちゃについて

はい、ありがとうございました。どんな場面がありましたか。少し聞いてみましょう。(数名をランダムに当てる)。皆さんの戸惑いと気持ちに共感しながら聞かせていただきました。こういう場面に遭遇すると、どう対応したら良いかと困りますね。何かうまい対応方法があればいいんですが…。

【ワーク2】

さて、それではワーク2です。私から皆さんへ質問をします。「子どものわがママを許しますか。許しませんか。」皆さん、子どものわがママに困ることありますよね。どうですか。わがママを基本、許すという人は「A:許す」、基本、許さないという人は「B:許さない」を選んで、付せん紙に書いてください。いろんなわがママがあるとは思いますが、基本どちら派なのか、どちらがより強く思うかで選んでください。(1分程度待つ)



では、皆さんに付せん紙を見せましょう。ジャン。どうですか？Aが多いかな。Bが多いかな。同じくらいでしょうか。おそらく、皆さん、それぞれに理由があつてのことですよ。どうして、そう思うのかを話してください。1人1分をお願いします。

様子を見て回る。(5分程度)

ありがとうございます。それぞれに、理由がありますね。では、続けてお聞きします。自分が子どもの頃は、どのように育てられましたか。Aですか、Bですか。そして大人になった今は、そのことをどう思いますか。ワークシートに書いてください。(2分程度待つ)


それでは、今、書いたことをグループの皆さんで共有してください。皆さんが発表した後は、それを聞いてどう思ったかなど自由に感想を出し合ってみてください。1人1分をお願いします。

様子を見て回る。(5分程度)

(予想される反応)
子どもの頃 : 「わがママには厳しく育てられた。」「結構、許してくれた。」
今 は : 「そのおかげで…良かったと思う。」「逆に、わが子には…している。」



ありがとうございます。今、自分が子どもの頃のことをふりかえっていただきましたが、これは、とても意味のあることなんです。実は、子育ては自分が受けた子育てに大きく影響を受けているからなんです。日本では、大人になるまでに子育てについてしっかり学ぶ場があるかと聞かれたら、残念ながら十分あるとは言えません。ですから、自分が親になったときに、どうすれば良いかと考えたら、自分がしてもらったこと、自分の親がしていたことを思いだしてやってみる、つまり、自分の経験に基づいて行われることが多いのです。自分の育てられ方が、今の自分の子育ての大きなベースになっているということを知っておいてください。



では、次に資料を読んでいただきます。わがままを基本許すというAを選んだ方は、資料Aを読んでください。許さないというBを選んだ方は、資料Bを読んでください。声に出さずに読んでください。(読み終わるまで待つ)

はい。資料を読んで、どう思いましたか。ワークシートの②に思ったことを書きましょう。書いたら、グループで共有しましょう。

発表の様子を見て回る。(5分程度)


(予想される反応)

- ◎全く逆の意見もあることに驚いた。
- ◎真逆の意見にも共感するところがあった。
- ◎資料を読んで考えが変わった。or 変わらなかった。
- ◎どちらが良いか迷い始めた。
- ◎どっちが正解なのか教えてほしい。



はい。ありがとうございました。自分が思っていることと逆の価値観に触れると、驚きますよね。それが、説得力のある言葉だと、自分の考えが変わることもあります。

皆さんはどうでしたか。考えが揺らいで、変わったり、迷ったりしていませんか。考えが少しでも変わった方は手を挙げてください。(挙手)はい。ありがとうございました。




それでは、もう一方の資料を読んでみましょう。(読み終わるまで待つ。)どうですか。両方読んで、考えはどうになりましたか。資料AとBを読み、どちらを選びますか。ワークシートの③にお書きください。書いたら、グループで共有しましょう。

発表の様子を見て回る。(5分程度)

(予想される反応)

- ◎初めに自分が思っていた意見だったので、やっぱりこっちが良いと思った。
- ◎逆の意見ともう一度比べてみたら、逆のほうが良いと思った。
- ◎どちらを選んで良いか、まだ決められない。
- ◎何を信じれば良いのか、不安になった。



はい。ありがとうございます。もう一方の資料を読んで、また考えが変わった方もいるかもしれませんね。資料AもBも学識者の意見です。学識者でも「許す」「許さない」と意見が分かれています。だから、皆さんの意見が分かれるのは当然ですし、どちらも正解です。でも、皆さんは、今の自分により共感できる意見を選択したはずですよ。

【ワーク3】

はい、ここで、皆さんの意見を整理したいと思います。ワーク3と書いてある紙に、今回、自分の考えがどのように変容したか、ふりかえります。

①に初めの意見を書いてください。Aでしたか、Bでしたか。②途中で資料を読みました。思っていたことと真逆が書いてある資料です。それを読んだ後、自分考えはどうでしたか。②に書いてください。最後③に、両方の資料を読んで、考えはどうなったかを書きます。

記入の様子を見て回る。(3分程度)

皆さんの考えの変容を確認します。手を挙げてください。ずっと考えが変わらなかった方。変わった方。途中、変わって、最後にまた戻った方。はい。ありがとうございます。

最終的に、どちらの意見になったかが重要ではありません。それよりも重要なのは、皆さんがAとBの真逆の意見に出会い、どちらにも良いところがあると認めた上で、どちらにしようかと一生懸命考えたことです。一つの事象にはたくさんの答えがあります。それを知った上で、自分だったらこの理由でこれを選ぶという思考をすることが重要なのです。

今、信じているもの、選んでいるものには、真逆の意見が存在するというのを常に意識し、それを認めながら、選択し続けるということです。

資料の一つを紹介します。(5分程度)

【資料を読む】

さて、本日の初めに考えたワーク1を思い出してください。自分とは異なる価値観に遭遇し、ちょっと困ったなあというエピソードを話してもらいましたね。

ストレスに感じた相手の意見ですが、今日のワークを踏まえるとどうでしょう。自分には自分なりの理由や背景があるように、相手にもあるのだとすれば、「私はこう思うけど、相手は何か私が知らない経験や情報をもっているに違いない。それは、どんな経験によるものなのだろうか？聞いてみたいな。教えてほしいな。」という風に考えられるようになりませんか。相手の価値観やその背景にあるものを好意的に受け止めるようになれば、自分の経験や考えがさらに豊かになる。そして、意見が変わるかもしれないし、変わらないかもしれない。今は、そうじゃないけど、いつかはその考えを取り入れるかもしれない。このような思考ができると、ワーク1で感じていたストレスも減るのかもしれない。

【ふりかえり】

本日は「私の子育て、これでいいの？」ということで進めてきましたが、どうでしたか。子育てで悩むのはしんどいので、答えを教えてほしいと思う親御さんは多いですが、決まった正解はないし、答えは絶えず揺らぐものです。だから、いろんな方の子育てに触れて、いろんな子育てを認めて、自分の子育てに柔軟に生かして答えを作ることが楽しいと思えるようになってほしいと思います。今日のこの時間が、皆さんの子育てに少しでも役立つことを願っています。

本日の学習は、これで終わりです。最後に本日の学習を通して「気づいたこと」「思ったこと」をふりかえりシートにご記入ください。

ふりかえりシートを記入(2分)、グループ内での発表(3分)。
(時間がなければ、早く書けた人を指名して全体に発表してもらう。)

皆様、お疲れさまでした。皆様のご協力に感謝します。ありがとうございました。

Ⅲ-1「早ね早おき朝ごはんで 元気アップ大作戦！」

①進め方

- ワーク1 子どもの生活習慣や心身の状態を振り返り、どのような点に注意して生活習慣を見直すとよいか話し合う。
- ワーク2 親の都合で子どもの生活習慣を乱していないか振り返り、親自身の行動や生活の仕方について考える。
- ワーク3 基本的な生活習慣を確立するための重要ポイントを知り、それぞれの各家庭の状況に合わせて、行動目標を明らかにする。

② 実践例



(資料1 『生活習慣チェックシート』を配付)

では、子どもたちの生活習慣だけでなく、みなさん自身の生活習慣も合わせて振り返ってみましょう。ご自身のことを()へ、お子さんのことについては()の横へ、あてはまれば○を記入してみてください。ご自身に、お子さんにもどちらもあてはまれば、○が2つつくこととなりますね。お子さんが2人以上おられる方は、印を変えてそれぞれのお子さん別にチェックされてもいいですし、我が家の代表選手！ということで、お一人だけでもいいです。

(記入の時間を取る)

さあいかがでしょうか？気付いたことがあれば発表してください。

(予想される反応)

- 兄弟・姉妹でも、全く生活習慣が違う。
- 親の自分と子どもの生活習慣が同じところが多く、親自身が気を付けないといけ
等



(発表された意見をまとめながら・・・)

ご自身の生活の様子、お子さんの生活の様子を振り返ってもらいましたが、『まさおくん』のおうちの様子をみなさんで考えていきましょう。

※エピソード1を配付して読む



まさおくんはとっても眠そうですね。みなさんのお子さんはどうでしょうか？なぜ、まさおくんは、朝、目覚めがわるいのでしょうか？午前中からあくびをしたり、ウトウトしたりしてしまうのでしょうか？一番下の枠に、『こうではないかな?』と思うことを簡単に書いてみてください。時間は約()分です。どうぞ。

(記入の時間を取る)

そろそろよろしいでしょうか？まさおくんの目覚めのよくない原因について、グループで話し合ってみましょう。()分程度時間を取りますので、司会の方よろしく願います。

グループの様子を見て回る。いくつかのグループに発表してもらおう。

盛り上がっていましたね。いくつかのグループにどんな話が出たのか、発表してもらいたいと思います。それでは()グループの方お願いします。

*いくつかのグループに発表してもらおう。

(発表をまとめながら…)

いくつかの原因が考えられました。やはり生活習慣が乱れるということは、どこかに原因があるということで、その原因を探り、どのような点に注意して生活習慣を見直していけばよいのでしょうか？

では、あきこさんのおうちの様子から考えていきましょう。



(エピソード2を配付し、読む)

さあ、あきこさんのおうちの様子…何が問題だと思われますか？もしあきこさんのおうちにアドバイスするとしたら、どんなことをアドバイスされますか？

ワークシートの吹き出しに、簡単に書き込んでみてください。

(記入の時間を取る。)

よろしいでしょうか？では、また、グループで、どんなアドバイスをするか？また、子どもの基本的な生活習慣を確立するために、保護者自身の行動や生活の仕方について話し合ってみましょう。では()分程度時間を取ります。司会の方よろしく願います。

グループの様子を見て回る。いくつかのグループに発表してもらおう。

盛り上がっていましたね。いくつかのグループにどんな話が出たのか、発表してもらいたいと思います。それでは()グループの方お願いします。

*いくつかのグループに発表してもらおう。



(発表をまとめながら・・・)

基本的な生活習慣については、子どもたち自身の問題もありますが、親の都合で生活習慣を乱していないか振り返り、親自身の行動や生活の仕方を考えていくことも大切です。では、次の資料をご覧ください。

※資料『早ね早起き朝ごはんリーフレット』

よりよい生活習慣を身につけるために、チャレンジできることはないでしょうか？このリーフレットには、子どもの生活にそって、チャレンジしてほしいことが8つあげられています。

- 1 いつも決まった時刻に起きる。
- 2 朝日を浴びて体内時計をリセット
- 3 朝ごはんを食べる習慣を
- 4 日中は、外で体を動かす
- 5 メディアと上手に付き合うルール作り
- 6 寝る1時間前から強い光をさける
- 7 歯磨きをして寝る週間を
- 8 いつも決まった時間に寝る

もうすでに全部やっているという方もいらっしゃるかもしれませんが、反対に1, 2個ならやっているという方もいらっしゃるでしょう。起床時刻、朝ごはんの時刻、就寝時刻の所には、時計の文字盤があります。「何時にこうしよう」とお子さんと話し合っご家庭のルールを決めるのにご利用ください。全部でなくて構わないので、家族でできることから始めましょう。

では、ワークシートのワーク3をご覧ください。

お子さんの生活リズムを維持・改善するために、ご家庭で取り組んでみたいことを次の項目から3つ選んで()にチェックを入れましょう。『3つは無理！』と思われる方は一つでも構いません。

(記入の時間を取る。)

そろそろよろしいですか。どの項目をなぜ選ばれたのか、グループのみなさんで意見交換をしてみましょう。()分程度とります。司会の方よろしくお願ひします。

グループの様子を見て回る。いくつかのグループに発表してもらおう。

さすが、毎日子育てを頑張っておられるみなさんですね。いろいろな視点から意見交換がされていました。では()グループの方、教えてください。

(発表をまとめながら・・・)

それぞれの家庭で取り組みたいことをチェックしてもらいましたが、それが行動目標になります。目標は立てるだけでなく、是非実行をしてみてください。『実行する』ことで、お子さんを含め、家族が『元気、やる気、笑顔いっぱい』になります。

エピソード2(アレンジ版)

あきちゃんは小学校1年生。いつもは夜8時までには寝るようになっています。

ただ・・・週末になるとちょっと状況は違います。夕方になると家の方はショッピングセンターにあきちゃんを連れて出かけ、食事や買い物をするのです。

「明日は休みだし、もっと遊ぼう。ゲームしよう！」

あきちゃんは、眠いのを我慢して家の人といっしょにゲームコーナーでゲーム。家に帰ってきた時には、10時をまわっていました。

※参加者のお子さんを想定して「あきちゃん」を「幼稚園の年長さん」等に変える。

Ⅲ-2「子どもの規範意識ってどうやって育てるの？」

① 進め方

- ワーク1 エピソードを読み、ロールプレイを通して、自分の関わり方を振り返るとともに、親として留意すべきポイントについて考える。
- ワーク2 様々な事例に触れながら、規範意識を育てるための親としてのかかわり方について自分の考え方を再認識したり、新たな気づきが得られるようにする。
- ワーク3 約束やルールを尊重し、遵守することができる子どもを育てるための取組を紹介し合う。

② 実践例



さあ、それでは、これからあるエピソードを紹介します。みなさんのおうちでもよくある光景かもしれません。

エピソードを紹介する。（参加者に読んでもらってもよい。）

どうですか？ みなさんのおうちでもよくある光景…もしかしたら起こる可能性のある光景かもしれませんね。

では、あなたが…この息子さんの保護者だったら、この後、息子さんにどのような話をされますか？ これから、グループの中で「保護者役」と「息子役」に分かれて、ロールプレイ…役割演技をしてもらいたいと思います。

（4～5人グループを想定して）

先程の自己紹介の中で、1番の方がまず息子役になっていただき、2番の方が父親役、3番の方が母親役になって、この後の会話を続けてください。その他の人は、演技の様子を見ながら、自分が親だったらどう言うかなど、演技を見ていて感じたことや気づいたことを感想で出し合ってください。

約（ ）分間時間を取りますので、時間があれば、役割を交代してやってみてください。

グループの様子を見て回る。

では、役割演技はここまでにして、演技を通して気づいたことや考えたことなど、グループの中で感想を紹介し合ってください。そして、このエピソードのように、子どもが約束を守れなかった場合、親として子どもとどのように向き合うことが大切か…例えば、どんな話をするか、その時の態度、気を付けることなどを、グループの中で話し合ってみてください。

グループの様子を見て回る。いくつかのグループに発表してもらおう。



(発表してもらったことをまとめながら、どの場合においても、子どものことを考えながら親としてどう接するべきか悩みがあることに触れ、みんな同じように悩んでいることに気づいてもらう。)

みなさん同じように悩まれていることが分かったのではないかと思います。先程は、架空のエピソードでしたが、このエピソードに似たような経験はありませんか？あなたのお子さんの出来事を思い出していただき、どんな出来事だったか、その時保護者としてどのように対応されたか、そして、その時保護者として考えられたことをグループの中で紹介してください。また、あなた自身がお子さんだったころの出来事を思い出していただき、どんな出来事だったか、あなたの保護者の方の対応で心に残っていること、そして、子どもとして考えたことでも構いません…どちらかをグループの中で紹介し合ってください。
(簡単にメモをしてもらってから、紹介に入ってもよい。)

グループの様子を見て回る。いくつかのグループに発表してもらう。



(いろいろな事例、発表の中から、親のかかわり方について注目し、規範意識を育てるためのルールが誰のためのものか、本当に必要なものなのかどうかに触れながら、ワーク3へつなげる。)

たくさんのエピソードを紹介してもらいました。では、実際に今我が家で取り組んでおられること…家で約束やルールを作るときに気を付けていることや、子どもさんが約束やルールを大切に思い、守っていけるようにするためにどのようにされているか…まず、ワークシートに記入し、その後、グループで紹介し合ひましょう。

記入の様子を見て回り、グループ内での紹介に移る。その後、全体発表をする。

(全体発表で出た意見を取り上げながら、ルールを作るときや守っていけるようにするためのポイントを、資料等を交えながら、まとめていく。)

例)たくさんの取組が、みなさんの話し合いの中で紹介されました。どの取組も、一番大切にしたいことは、ルールは親の都合、押しつけではなく、子どもの成長に合わせ、子どもとともに作っていくことが大切ですね。そして、作っただけではなく、ルールを守れたときには「ほめる」ことも大切ですし、保護者自身も子どもと一緒に「守っていく」ということが大切ですね。



Ⅲ-3 「ふりかえろう・・・子どもとの接し方」

① 進め方

- ワーク1 エピソードを読み、日頃の言動で、子どもを傷つけることもあることに気づく。
 ワーク2 ディレンマ・ゲーム等により、子どもの人権に配慮した接し方について考える。
 ワーク3 これから取り組みたいことや気を付けようと思うことを考え、思いを共有する。

② 実践例



日頃の言動で、もしかしたら「子どもを傷つけてしまっているかもしれないなあ？」と思うようなことはありませんか？ まず、このエピソードをもとに考えてみましょう。

「エピソード1」を配付し読む。

では、グループで、エピソードの□の部分で、役になりきってやってみたいと思います。先程、グループ内で決めた番号の1の方が母親役に、2の方が晴男、他の人は観察役ということでやってみてください。時間は約〇分程度取ります。役をどんどん交代しながら行ってください。では、お願いします。

グループの進行状況を見て・・・

では、そこまでにして、それぞれの役をしてみた感想をグループ内で発表してください。

(時間があれば、各グループの感想を全体へ紹介する。)

(感想をもとに・・・)何気ない子どもへの接し方、言葉かけの中に、子どもを〇〇だから・・・と決めつけているようなこと・・・見せてしまっていることはありませんか？それでは、次のエピソードで考えて見ましょう。

「エピソード2」を配付し読む。

では、このときの晴男の気持ちを考えて吹き出しの中に書いてみましょう。(記入の様子を見て・・・)

では、晴男の気持ち・・・発表してもらいたいと思います。

※エピソードの紹介は、ファシリテーターが役割演技(ロールプレイ)してもよい。その際、うちわで作った人物絵などを持ってやると効果的である。

(予想される反応)

○「真由美だけほめられてつまらないなあ・・・」

○「何で友達と比べるのかなあ・・・」

○「どうせぼくは、何もできないからなあ・・・」 等



(意見をもとに・・・)

そうですね。お母さんは、真由美さんをほめているだけなんですけど、それを聞いている晴男くんはとてもつらいですよ。片方をほめていることは、もう一人は比べられている・・・って感じてしまいますよね。日頃の言動で、子どもたちを傷つけてしまっていることはあるかもしれませんよね。

では、子どもの人権に配慮した接し方について、次の10項目についてみなさんで考えていきましょう。

ワークシートを配付する。

では、ワークシートにある子育てについての10の考えを読んでいきます。各項目について、みなさんのお考えに近いものに○印を記入してください。考え方は様々なので、みなさんの考えに近いところに直感で○をつけていってください。

どうですか？「うーん、悩む・・・」と言ったところもあると思いますが、少し、それぞれのお考えをグループ内で見せ合ってください。

(様子を見ながら・・・)

グループの中で、考えが色々分かれている項目がありますか。グループの中で、一番考えが分かれているという項目を一つ選んでください。その項目について『ディレンマゲーム』をしましょう。

まず、机の真ん中に矢印が書かれている紙を置いてください。グループで先ほど選んだ項目の1つを読みます。その項目についての自分の考えを紙の上に示すように、線のどちら側か、その考えの強さが分かる位置に自分の名前を書いた付箋紙を貼ってください。

次に自分がその位置に付箋紙を貼った理由を一人ひとり話すようにしてください。はいどうぞ。

(グループの様子を見て・・・)

今、他の人の考えを聞いて、貼る位置を変えたいと思った方はいらっしゃいますか？(確認後)その方は貼る位置を変え、変えた理由をグループで話して下さい。はい、どうぞ。

(グループの様子を見て)

このように『ディレンマ・ゲーム』とは自分自身の意見を発表し、他の人の意見を傾聴し、新たな理解に照らして意見を交換するように促すための方法です。自分はこう思っていたけど、○○さんの考えを聞くと『なるほど』そういう考え方も有りだなと自分の意見を変えたり、でもやっぱりこうなんだと自分の考えを振り返ったりするものです。

そう思う

思わない





今、一つの項目だけを取り上げてやってみましたが、これから10分ぐらい時間をとりますので、グループで取り上げたい項目を選んでディレンマ・ゲームをやってみてください。ではどうぞ。

(グループの様子を見て…)

ありがとうございました。今日は『子どもの接し方』についてふり返っていただきました。それでは、『感情にまかせて叱ることとしつけとはちがう』という資料をご覧ください。

(資料の配付)

資料1のグラフをご覧ください。子育てをしていると『子どもを感情的に叱ってしまう』という人が全体の8割、また『子どもを思わずたたいてしまう』人が半分近くいます。子どもの心や身体を傷付けるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性もあります。児童虐待以外にも、資料2のように子どもの人権に関することはいろいろあります。

我が子だから可愛いのはわかります。でも子どもは、親の言いなりになる存在ではありません。我が子が自立するように、他人に迷惑を掛けないように、人と助け合うような思いやりのある人に(育てて欲しい)など、親としての強い願いは分かります。その思いが強すぎて、感情的に叱っていると『怒られるのが怖いから怒られる人の前ではしない』という行動を取ってしまうのかもしれない。『1回叱ったらすぐ行動を改める』なんて大人でもなかなかできません。しつけには時間がかかるものです。子育てをしながら自分も親として育てているんだと思います。

では、最後に、このプログラムをやってみて、これから気をつけようと思ったことや今後取り組もうとすることを『ふりかえり』のところに書きください。

(時間があれば、全体への発表を行う)

*ディレンマゲームについては、人数や部屋の広さによって、部屋をロープ等で区切って、移動しながら行う方法もある。

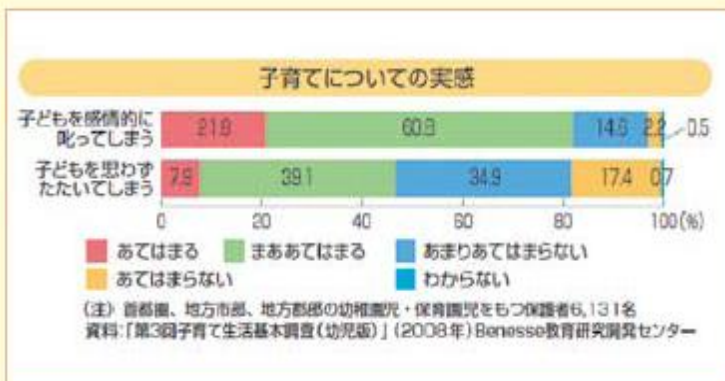
*いじめや子どもに対するしつけ(暴力等)については、グループ全員が「やっても良い」というような場合は、ファシリテーターが、他の考え方などを紹介して、きちんとおさえておく必要がある。

資料1

感情にまかせて叱ることとしつけとはちがう

子どもの心や身体を傷付けるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性があります。

※児童虐待に気付いたら、通報の義務があります。



資料2

児童虐待以外にも、子どもの人権に関することはこんなものがあります。

例: いじめ、家庭内のDVを見(させ)る、ネット・ケータイによるいじめや犯罪、親の生活時間に子どもを合わせる、習い事の強制 など

Ⅲ-4 「困ったことへの対処法」

① 進め方

- ワーク1 エピソードを読んで、ロールプレイを行い、親と子の気持ちについて考える。
 ワーク2 事例への対処方法(トラブルへの対処方法)について考え、グループ内で話し合う。
 ワーク3 他の場合の対処方法や日頃から心がけていくことについて話し合う。

② 実践例



困った事態に直面した子どもに「どう接していけばいいか?」「どう解決していけばいいか?」まず、このエピソードをもとに考えてみましょう。

【エピソード】「もう学校へ行きたくない」を配付し読む。

では、グループで、太郎君役と保護者役を決めて、役になりきってやってみたいと思います。先程、グループ内で決めた番号の1の方が太郎君役に、2の方が保護者役、他の人は観察役ということでやってみてください。時間は約〇分程度取ります。役をどんどん交代しながら行ってください。では、お願いします。

グループの進行状況を見て…

では、そこまでにして、自分で演じたときの「太郎君の気持ち」と「保護者の気持ち」について、ワークシートに個人で記入してください。(約〇分)

ワークシートへ記入(個人で)

では、それぞれの役をしてみたの感想をグループ内で発表してください。

個人の記入をもとに、太郎君と保護者の気持ちについて話し合う。

では、「子ども役は、どう聞かれると話しやすいか。」についてグループで話し合ったことを発表してください。

つらい思いの子どもへの接し方(保護者の接し方)を発表し合う。

※わが子を大切に思うと同時に、どうすればいいか戸惑ってしまう保護者の気持ちにもふれる。
 ※エピソードの紹介は、ファシリテーターが役割演技(ロールプレイ)してもよい。
 その際、うちわで作った人物絵などを持ってやると効果的である。

(予想される反応)

○「ゆっくり、やさしく聞いてもらおうと話しやすい。」(子ども)

○「大きな声や急がすように聞かれると話にくい。」(子ども)

○「うちの子が『学校へ行きたくない。』と泣いている。どうしよう・・・」(保護者) 等



(意見をもとに・・・)

そうですね。「子どもの気持ちになって声をかけることが大切だ。」ということや、「わが子が泣く姿に、保護者として動揺する気持ち」も体験していただきました。

ワークシート(ワーク2)を配付する。

では、ワークシートにある「★太郎君の問題を解決するために、どう対応していけば良いでしょうか?」「○あんならどうしますか?」にチェックを入れて(複数可で順番も考える)「○その後の展開を想像してみましょう。」「○後日・・・次郎君の保護者はどうしたらよいでしょうか?」へ個人で記入してみてください。両者の立場で考えてみてください。(約〇分)

ワーク2に取り組む。(個人)

では、ワーク2について、グループで話し合ってください。(約〇分)

ワーク2について、グループで話し合う。

では、グループで話し合った、対応策についてグループで発表していただきます。(数グループを指名して、発表してもらおう。)

ワーク2を通して話し合った「対応策等」について、グループで発表する。

発表をありがとうございました。

(発表を取り上げて)コメントしながら、ポイントをおさえていく。

- ・ どの解決法にも長所・短所があることに気づく。
- ・ 加害者的立場になったときの対応法についても考慮する。
- ・ 人間関係の密度によって、効果が変わること。



それでは、エピソード以外の事例についても、対処方法や日頃から心がけておくことなどについて、グループで話し合ってください。

ワークシート3(ワーク3)を配付する。

グループで「想定される困った事例」を選び、その対処法や「日頃からしておけば！」について、話し合ってください。(約〇分)

ワーク3について、グループで話し合う。

では、グループで話し合った、「いろいろな対応策」や「日頃から心がけておくこと！」についてグループで発表していただきます。(数グループを指名して、発表してもらおう。)

ワーク3を通して話し合った「対応策等、日頃からの準備」について、グループで発表する。

発表をありがとうございました。

(発表を取り上げて)コメントしながら、ポイントをおさえていく。

- ・ 様々な対応策があることに気づくようにする。(答えは1つではない)
- ・ 周囲の支援が子どものトラブルに有効であることを確認する。
- ・ 周囲の支援ができるように、保護者－先生－地域とのつながりが重要であることを確認する。
- ・ 保護者－先生－地域とのつながりができるように、日頃からのコミュニケーションが大切であることを確認する。

資料「毎日の子育て生活」「地域への期待」を配付する。

資料(図1-2-1, 2)を御覧ください。心配事はお子さんの学年や成長によってもさまざまで、かわっていき、みなさんがもっています。

また、資料「子育て支援に関する地域へ期待」を御覧ください。地域とつながりのあるの方が、不安は少ないようです。

このワークを通して、「気づいたこと、やってみようと思ったこと」を「ワーク3のふりかえり」へ記入してください。(約〇分)

ふりかえりへ記入

グループ内で、「ふりかえり」を発表してください。(約〇分)

ふりかえり発表(グループ内)

全体で発表してください。(数グループ指名)(約〇分)

ふりかえり発表(全体)

子育てにはトラブルはつきもので、困ったときは1人で悩まず、周囲と協力して取り組むことが大切ですね。そのために、日頃から、保護者、先生、地域の方々とのコミュニケーションが大切にしていきましょう。

Ⅲ-5「気づいてますか？ 子どものサイン！」

① 進め方

- ワーク1 エピソードをもとに、子どものサインに気づくポイントについて考える。
 ワーク2 子どものSOSやストレスサインに気づいたときの保護者の対応について考える。
 ワーク3 子どものサインを見逃さない親になるために、日頃からの子どもとのかかわり方のポイントについて考える。

② 実践例



それでは今日は「気づいてますか？ 子どものサイン！」というテーマで進めていくわけですが、まずは、このエピソードから紹介します。

エピソードを読む。(参加者に読んでもらってもよい。)

エピソードに登場したA子さんの、どんなところが「気がかり」でしょうか？ グループで少し話し合ってみてください。

グループの話し合いの時間を取り、その後全体へ発表してもらおう。



- 学校の話をしなくなった。
- 友達と遊びに行く回数が減った。
- 返事が素っ気ない。
- 口(くち)数が減った。 など



今発表していただいたような様子が、子どもたちから出されている「SOS」や「ストレスサイン」かもしれませんね。では、それを参考に、子どもから出されるSOSやストレスサインにはどのようなものが、これまであったか…分からないなあという方は、ご自分の子どものころのことを思い出していただいても構いません。そして、その時どのような対応をしたか、子どもころどんなことをしてもらったかをワークシートに記入してください。

記入後、グループの話し合いの時間を取り、その後全体へ発表してもらおう。

(発表の内容を受けながら…)対応の仕方は今発表していただいたように、様々有り、この場合によって異なります。大切なことは、子どもの周りには、様々なストレス要因があり、保護者としていかにそれに気づくか、またSOSを見逃さず早期解決に向けて、一緒に解消しようとするかです。

では、そのための、子どものサインを見逃さない親になるために、日頃からの子どもとのかかわり方について考えていきましょう。



子どもたちのSOSやストレスサインに気づく親，サインを見逃さない親とはどんな親でしょうか？ 子どもたちの中には，サインを出さない子ども…言葉や態度に出ない子どももいると思います。日頃から子どもへどんな関わり方，接し方，どんなことに気を付けていけばよいかを考えて，まず，お一人お一人のお考えを付箋紙に書いてください。

記入の様子を見て回り，記入後，グループ内で発表する。

では，お一人お一人のお考えが書かれた付箋紙を模造紙に貼りながら，グループ内で，意見交換をしましょう。

グループ内の発表後，全体へ発表してもらおう。



(資料1を配付し)

あくまでも一例として，今配付したプリントに，子どもの様子や変化に気づくヒントが書かれています。チェックはおうちに帰ってからしてみてください。その資料を参考にして，また，今みなさんが話し合われたことをもとにして，我が家で取り組んでいきたい，気を付けていきたいポイントをオリジナルで考えてみてください。

記入後，発表してもらっても良い。

今書かれたことを，是非今日，今から始めてみてください。子どものサイン，SOSを見逃すといじめや不登校へつながっていくケースもあるので，日頃からの家庭での関わり方や親同士の間関係など，しっかり情報交換をしていくことが大切です。また，こういったことは，どの家庭でも起こりうることです。困ったことがあれば，学校や先生，相談機関等に早めに連絡をして，一人で抱え込まないように対応していきましょう。



Ⅲ-6「子どもの家庭学習について楽しく話し合おう！ ～探そう！魔法の言葉・技～」

①進め方

ワーク1 子どもへの関わり方について共有する。

ワーク2 理想の声かけや関わり方についての疑似体験を通し、子どもの気持ちを理解する。

ワーク3 今後、取り組んでいきたいこと、気をつけたいことを話し合い、実践へとつなげる。

② 実践例



まず、みなさんへ、2つ質問をします。

最初の質問は、「お子さんの家庭学習の時間に満足している」という方…挙手をお願いします。

(挙手の数にコメント…)

ありがとうございました。では、次の質問です。「我が子より昔の自分の方が家庭学習をしている…していたなあ」と思われる方は挙手をお願いします。

(挙手の数にコメント…)

それでは、具体的に「我が子の家庭学習」について一番困っていることは何でしょうか？参加者の方にインタビューをしてみようと思います。

(参加者数名に発表してもらい…)

そうですね。やっぱり…「ゲーム」が一番大きな原因のようですね。

そこで今日は、お子さんがゲームに夢中になっている場面を取り上げて、ゲームをはじめとするメディアコントロールについて考えていきましょう。

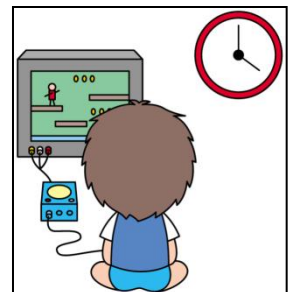
そして、家庭学習に向けて、子どものやる気が出る接し方について、保護者として理想の関わり方をみなさんと話し合っていきましょう。

ゲームをして家庭学習をしない子どもの様子の絵を配付(又は掲示)し…



今、目の前に我が子がこの絵のような状態でゲームに夢中になっています。さて、みなさんは、我が子にどんな声かけ、関わり方をされていますか？青い付箋紙に、1枚に一つ記入し、たくさんある方は、付箋紙を何枚使っても構いません。どんどん記入してください。

それではどうぞ…



記入の様子を見て回る。



記入はそこまでです。では、グループの中で話し合ってみましょう。お一人ずつ付箋紙1枚のことを発表してもらい、同じような関わり方・声かけがあったら、「一緒だわ…」とか言いながら、その近くに張って行ってください。では、司会者の方、よろしくお願いします。

(予想される反応)

- 「早くやめて勉強しなさい。」
- 「宿題、時間割はばっちりかな？」(優しく)
- テレビの前でうろうろして、消すふりをする
- 「目が悪くなるぞ！」
- 「(約束の)もう時間がきたよ！」 等



ありがとうございました。今の、声かけ・関わり方を紹介してもらいました…が、なかなか、うまくいかないのが現実ではないでしょうか？
そこで、次に、黄色い付箋紙に、今度は、理想の声かけや関わり方…こうすればうまくいくんじゃないかなあ…とか、これだったら子どもはやる気を出してくれそうだ…ということを考えて、同じように1枚に一つ記入してください。
それではどうぞ…



記入の様子を見て回る。



記入はそこまでです。では、また、グループの中で話し合ってみましょう。同じような関わり方・声かけがあったら、その近くに張って行ってください。では、司会者の方、よろしくお願いします。

(予想される反応)

- 「宿題が終わったら、多めにゲームさせてあげるよ。」
- 「時間までにやめられてる。すごいね。」
- 「早く勉強終わらせて〇〇しようね。」
- 「(分からないところ)一緒に勉強するか？」
- 「いつから宿題するか、一緒に決めよう！」 等



ありがとうございました。他のグループでは、どんな声かけ・関わり方が出たのでしょうか…気になりますよね。他のグループをこれから見て回っていただき、いい声かけだなあ…これは使えそう…こういう関わり方なら子どももやる気を出そう…というものへ。「いいねシール」を貼って行ってください。
それではお願いします。 ※シールの代わりに『〇』印をつけていってもよい。



では、席の方へお戻りください。

どんな声かけ・関わり方が参考になりました?(発表してもらってもよい)

では、自分たちのグループの中で「いいねシール」が貼られているもの、つまり「理想の関わり方」ですね。それと、青色の付箋紙に書かれている「今の関わり方」で、実際に体験してみようと思います。

(ワークシートを配付し)

今お配りしたシートを見ていただき、グループの中で、ナレーター役、親役、子どもの役を決めていただき、親役の方は、それぞれの付箋に書かれていることを言うていただき、子ども役の方は、その時の気持ちを考えて台詞を言うてみてください。

役は交代しながらやっていただき、全員の方が、子どもの役をできるようにお願いします。 それではどうぞ…

◎親役、ナレーター役、子ども役(2人)に分かれて、「今の声かけやかかわり方」と「理想の声かけやかかわり方」を体験しましょう!

【青い付箋 編】

〈ナレーター〉

「〇〇(子どもの名前)さんは、勉強をしないといけないと思いながらもつついゲームをして いました。そこへ(お母さん又はお父さん)がやってきて…」

〈親役〉

「(青い付箋の言葉)」

〈ナレーター〉

「と、声かけをしました。では、そのときの気持ちを〇〇(子どもの名前)さんにインタビュー してみます。」

〈子ども役1・2〉

「そのときの気持ちは…(学習に対するやる気)です。」

【黄色い付箋 編】

〈ナレーター〉

「〇〇(子どもの名前)さんは、勉強をしないといけないと思いながらもつついゲームをして いました。そこへ(お母さん又はお父さん)がやってきて…」

〈親役〉

「(黄色い付箋の言葉)」

〈ナレーター〉

「と、声かけをしました。では、そのときの気持ちを〇〇(子どもの名前)さんにインタビュー してみます。」

〈子ども役1・2〉

「そのときの気持ちは…(学習に対するやる気)です。」



ありがとうございました。

では、子どもの気持ち・・・どうでしたか？
それぞれの声かけ・関わり方で、どんな気持ちになりましたか？

(何人かに発表してもらおう)

発表後、資料等を使用しまとめをする。

資料②



魔法の言葉 ～やる気を起こさせるひと言葉集～ (子ども向け)

- 勉強を頑張ってたもんね。(努力を認める言葉)
- すごいね。(褒める言葉)
- 能力はあるんだから。(能力を認められる言葉)
- 頑張って。(励ましの言葉)

(すららネット調べ)

- 「さすが中三にもなると違うわね。お母さんが中三の時より立派かも・・・」
- 「あなたなら、一人でもちゃんとできるはず。待っているから、しっかりやりなさい。」
- 「これで失敗したわけがわかったわね。次はきつとうまくいくでしょう。頑張って！」
- 「60点だったの。勉強頑張ってたのにねえ・・・。結果が出るのは3ヶ月後。大丈夫、この調子！」

(千歳市立駒里小中学校学校だより)

- 「よかったね」、「ありがとう」、「がんばれ」、「きつとできるよ」、「それでいいじゃない」
- 「もう一息だね」、「焦らず、がんばれ」、「お父さん(お母さん)もうれしいよ」
- 「よくやったね」

(学びの場.com)



魔法の言葉 ～やる気を起こさせる名言集～ (保護者向け)

○この子は才能がないからとやめさせるようなことはしてはいけません。
たとえ才能がなくてもあふれる情熱があれば、破壊力や持続力が生まれてきます。

(「一生食べていける力」がつく大前家の子育て、大前研一)

○痛い目に遭わないと、人間はほんとうには変わらない。
だからこそ指導者は、ときにはあえて失敗させることも必要なのである。

(負けかたの極意、野村克也)

○60点でいいんです。

(子どもの「花」が育つとき、内藤寿七郎)

○あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり、何かをしてやったりするより、
ずっと難しく愛情のいることです。

(PTA 文集)

○親は、子どもに、友だちと同じである必要はないと言ってやりましょう。
人がそれぞれ違うことは大切なことだということを、子どもにぜひ教えてあげてください。

(子どもが育つ魔法の言葉、ドロシー・ロー・ノルト)

○子どもは一人一人違うのだということを頭に入れて、あわてないで信用し、
子どもになんでもさせる。

失敗は多いほどいいのだから、失敗しても決して叱らない。

「やる気を育てる」にはこれ以外の方法はない。

(吉岡たすく)



Ⅲ-7 「ママ友・パパ友づくりしてますか？」 ～親同士のコミュニケーションづくり～

① 進め方

- ワーク1 エピソードから、子どもが起こしたトラブルの相手への、対応の差について考える。
 ワーク2 仲のよいママ友・パパ友とは、どのように出会ったか、ふり返る。
 ワーク3 保護者同士のコミュニケーションづくりのために、心がけるべきことを考える。

② 実践例



子育てをする親にとって、情報交換や悩みを相談できるママ友・パパ友の存在は、心強いですよね。お子さんの成長とともに、親同士のつながり「ママ友・パパ友づくり」をすることも、子育てをする上で大変役に立ちます。

今日は、親同士のコミュニケーションが子どもたちの関係にどのような影響があるか、一緒に考えましょう。

では、こんなとき、あなたならどうしますか。

(エピソードを読む。)

みなさんがAさんの親なら、この後どうしますか。

「え～!?!」「困ったことになったな。」など、いろいろな感想をもたれたのではないのでしょうか。

でも、このエピソードは、BさんのことやBさんの親のことをどのくらい知っているかで違いがあると思いませんか。

まずは、Bさんの親と知り合いであった場合、どうするか〇分間グループで話し合ってください(ワークに書き込んでください)。



(予想される反応)

- 子どもに事情を詳しく聞く。
- 家族に相談する。
- 相手の家へ電話する。または、行く。
- 周りの親に相談する。
- 先生に聞く。等



どのような意見が出たでしょうか。

数グループ、出た意見を発表してもらおう。
出た意見を板書する。





それでは、Bさんの親と知り合いでなかった場合は、どうされますか。○分間話し合ってください(ワークに書き込んでください)。

(予想される反応)

- Bさんの親がどのような人物なのか、周りの親に相談する。
- 先生に詳細を尋ねる。 等



どのような意見が出たでしょうか。

数グループ、出た意見を発表してもらう。
出た意見を板書する。



(時間があれば)

今出てきたような対応をした場合、その後の展開はどのようになるか話し合ってみましょう。

2つの場合を比べると、何か違いがありましたか。

お聞きしていると、親同士が知り合いの場合は『『すぐ』直接』話をする』といったふうに、スムーズに解決していきそうなのですが、知り合いでなかった場合は、「先生や共通の知り合いに尋ねる」といったように、対応にワンクッション入っていますね。

また、話しやすさにも違いが出てこないでしょうか。親同士知り合いで気心が知れていれば「お互い様」で解決することでも、知り合いでなかった場合、すんなり解決することでも問題が複雑化するおそれもあります。

これらのことから、日頃から親同士でつながりをもっておくことが、子どもの人間関係づくりにおいて重要であることが再認識できたのではないのでしょうか。

ところで、みなさんが一番仲のよいママ友・パパ友とは、どこで出会われましたか。また、どうやって仲よくなっていかれたでしょうか。

数名にインタビューする。

(予想される反応)

- 幼稚園入園の時に
- 引越をした時に
- 同じ悩みをもっていることが分かり、相談をしていくうちに仲よくなった。
- PTAのことなど、いろいろと教えてもらったことで、打ち解けていった。

等





親同士のコミュニケーションづくりのために、「日頃からこんなことを心がけておく」「まだやっていないけれど、こんなことをやってみよう」といった方法を、ふりかえりにまとめてみましょう。



(書き尽くしている様子であれば)

それでは、考えた意見をグループで交流してみましょう。○分間時間をとります。

(予想される反応)

- あいさつをする。
- 送迎の時に、世間話をする。
- 子どもの学校での様子を、先生からこまめに聞く。
- 等



【まとめの例(「資料編」を参考に)】

子育てにトラブルは付きものです。一人で抱え込まないこと、「そのやり方、いいね。教えて。」と気軽に言い合える関係を作っていきたいですね。

最後に、人間関係づくりのコツを3つ紹介します。

① 「あせらずだんだんに」

子どもを介して、親同士が少しずつつながっていけばいいですね。そのためには、日頃から声をかけ合い情報交換して、顔見知りをだんだんと増やしていきましょう。

② 「ほどほどの距離で」

いつも相手に合わせるようにすると、疲れることもあります。時には、断ることがあっても仕方ありません。逆に、断られたからといって都合が悪かっただけのことで、お互いに気にするのはやめましょう。無理をしないことが、長続きのコツです。

③ 「今度はあなたが声をかける番」

子育てをお互いががんばっている者同士、おしゃべりできる相手がいると、いい情報を得たり気持ち楽になったりすることがあるのではないのでしょうか。初めて見かける親子がいたら、今度はあなたの方から声をかけてみませんか。



同じ子育てに関わる仲間として、知恵を出し合いながら、子育ての悩みを解決していけるとすばらしいと思います。

お子さんの成長とともに、みなさんがきっとよい仲間になると感じました。御協力、ありがとうございました。



Ⅲ－8「いただきます」「ごちそうさま」 ～食事への感謝、食事のマナー～

①進め方

- ワーク1 エピソードを読み、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を考える。
 ワーク2 食事のあいさつ以外の食事中的のマナーで気になることを出し合う。
 ワーク3 家庭で実践している工夫等を話し合い、食事中的のルールや今後の取組等を考える。

② 実践例

今日は、『食事への感謝、食事のマナー』というテーマで研修を進めていきます。テーマを見て、はっとされる方もいらっしゃるかもしれませんね。忙しい朝や家族がそろわない夕食、なかなか食事のマナーまで考えるゆとりがない御家庭も多いのではないのでしょうか。今日は食事中的のマナーを中心に、お子さんの食生活について考えていきましょう。

まず、エピソードを紹介します。

(ワークシートを配付し、エピソードを読む)

「なんで“いただきます”を言わないといけないのか」とお子さんに聞かれたら、あなたならどのように答えますか。ワーク1のところにお書きください。



記入の様子を見て回る。(ここで考える時間はあまりとらない)

では、書いたことをグループ内で発表してもらいます。順番を決めてください。1番の方はお母さん、2番の方はお子さんの役をします。その次は、2番の方がお母さん、3番の方がお子さんというふうに順番に役が移動します。お子さんの役になった方は、納得がいくまでお母さんと話をしてくださって構いません。(ファシリテーターが2人の場合は見本を見せてもよい。その場合、わざとうまく答えられない母の役をして、子どもが納得しないようにしてもよい。)

(予想される反応)

- ・どの食べ物にも命があって、その命をいただいているからなのよ。
- ・お父さんやお母さんが一生懸命働いて、食事ができているんだから、親への感謝の気持ちよ。
- ・料理を作ってくださった方へありがとうの気持ちを表しているのよ。
- ・そんなの昔から決まってるんだから、言うのが当たり前。 など



役割演技の様子を見て回る。

はい、グループでどんな答えが出ましたか。子どもにどう話すと良さそうですか。グループで少しまとめてみましょう。(少しだけ時間をとるが、全体の発表はしない。)

そうですね。皆さんが思っているとおり『いただきます』にはちゃんと意味があるんです。(資料①を配付し、声に出して読む。)

食べ物が口に入るまで、実はたくさんの人の苦勞、そして愛情が存在しているんですね。食事への感謝の気持ちを忘れず、食べ物を大切に育ててほしいですね。『いただきます』『ごちそうさま』に限らず、食事への感謝の気持ちはいろいろなところに表れます。それが、食事のマナーや態度なのかもしれません。



それでは、食事のマナーや態度について、もう少し考えていきましょう。皆さんのご家庭で、家族の食事のマナーや態度で気になることを青色の付箋紙に書いてください。お机の上の付箋紙、1枚に1つ…お書きください。たくさんある方は、付箋紙を何枚使っていただいても構いません。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

では、これからグループ内で発表してもらいます。今度は、2番の方から発表しましょう。付箋紙を一枚ずつ模造紙に貼りながら紹介してください。全部発表したら、次の方が発表します。同じ内容のものが出た時は、「そうそう、私も同じ。」と言いながら、近くに貼ってください。それでは、どうぞ！

(予想される反応)

- ・茶わんを持たずに食べる。
- ・肘をついて食べる。
- ・口の中に食べ物が入ったまましゃべる。
- ・食事中に携帯を触る。
- ・お茶ばかり飲む。
- ・食べ物に興味がない。
- ・好き嫌いがある。
- ・テレビを見て、食事が止まる。
- ・何にでもしょうゆ（ソース、マヨネーズ）をかける。
- ・はしの使い方が気になる。
- ・食べるのが遅い。（逆に早い）
- ・食事中ウロウロする。
- ・食事の準備、片づけをしない。
- ・姿勢が悪い。
- ・手を洗わない。
- ・噛まずに食べる。
- ・味やおかずの文句を言う。



話し合いの様子を見て回る。

たくさん、出ましたね。どんな意見が出たのか、グループで発表してもらいます。発表者は3番の人です。グループで多かったものを2つ発表してください。次のグループは、前のグループとは違う意見を発表してください。

ありがとうございました。食事のマナーや態度で気になることはいろいろありましたね。せっかくの食事、楽しくおいしくいただきたいですよね。何か良い方法はないでしょうか。皆さんの御家庭で、食事に関わるルールはありませんか。作る人、食べる人がそれぞれ気を付けていることがあれば教えてください。食事のことでも構いませんし、食事の前後でもいいです。現在のことでなく御自身が子どもだった頃のことでも構いません。今度は赤色の付箋紙、1枚に1つ…お書きください。たくさんある方は、付箋紙を何枚使っていただいても構いません。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

では、これからグループ内で発表してもらいます。今度は、4番の方から発表しましょう。先ほどと同じように付箋紙を一枚ずつ模造紙に貼りながら紹介してください。そのときに、さきほどのワーク2で出し合った気になるマナーや態度を書いた青色の付箋紙をぴったり解決するものであったら、その横に貼ってください。それでは、どうぞ！

(予想される反応)

- ・お茶碗に手を添えることを必ず言う。 ・食事の前にはおやつを食べない。
- ・食事中はテレビを消す。 ・いただきます, ごちそうさまをみんなで言う。
- ・お手伝いをする時間と機会をちゃんと確保する。 ・一緒に買い物や調理をする。
- ・食事中に家族で会話をする。 ・食べ物についての話をする。
- ・栄養バランスや旬のものを取り入れた献立を考える。 ・お皿をきちんと並べる。
- ・野菜を育てる。 ・薄味に気を付ける ・ソースやマヨネーズを隠す。
- ・大皿に盛らずに、個々の皿に盛る。 ・おいしい料理を作る。



話し合いの様子を見て回る。

たくさん、出ましたね。他のグループではどんな意見が出たのか、皆さん知りたいですよね。それでは、これから席を立て、ほかのグループの意見を見に行きます。そのときに、いいなと思う工夫やルールがあればシールを貼ってください。(シールを配付、または、初めから机の上に置いておく。)
シールは、一人10枚です。足らなければ渡しますので私のところまで来てください。

ほかのグループの模造紙を見て回る。みんながひと通り見て回れる時間をとる。

はい、ありがとうございました。席へお戻りください。さあ、シールはどこにたくさん貼られていますか。グループで一押しの意見を発表してもらいます。どれを発表するか、決めてください。発表者は、5番の方です。

(発表された内容をまとめながら…)

各家庭でのやり方は様々です。例えば「料理は大皿に盛る。食べられる分だけ取って、他の家族を気遣うようにさせたい。」という考えもあれば、「料理は大皿に盛らない。食べ過ぎに注意させたい。」という考えもあります。それが一番正しいというわけではありません。

皆さん、たくさんの工夫がありました。食事中だけでなく、食事の前後にもルールや工夫ができるんですね。普段から子どもたちに『食事』に対して興味や関心を高めていくことも大切ですね。

子どもたちはいつか家庭を巣立っていく日がやってきます。子どもの頃からずっと染み付いた食生活や食事のマナーはなかなか変わりません。他人と触れ合ったときにそれが受け入れられるかどうかは案外大きなことかもしれません。相手を不快にするのではなく、相手も自分も楽しく食事ができる社会人に育ててほしいですね。次の世代、また次の世代にも食事の素晴らしさ、楽しさを伝えるためにも、今の皆さんの家庭の役割が大切なように思います。

(必要な資料とふりかえりシートを配付する)

さて、お配りした資料ですが、おうちに帰ってゆっくりご覧ください。文部科学省から出ている「子どもの食生活で大切にしていきたいこと」はとても参考になると思います。

(時間があれば、読んで少し説明してもよい)

それでは、今日の研修のまとめとして、これから…今日から御家庭で実践してみたいことなども含め、研修の感想をご記入ください。

ふりかえりシートを記入、グループ内での発表。
(時間がなければ、早く書けた人を指名して発表してもらおう。)



Ⅲ－9「子どもの食事ってこれでいいの？」

① 進め方

- ワーク1 エピソードを読み、各家庭での子どもの食生活に関する悩みや不安を話し合う。
 ワーク2 子どもの好き嫌いの克服は難しく、親が心にゆとりを持って対応する必要に気づく。
 ワーク3 家庭で実践している工夫等を話し合い、今後の取組等を考える。

② 実践例



今日は、『子どもの食事ってこれでいいの?』というテーマで研修を進めていきます。テーマを見ていただいてもうピンとこられている方も多いと思いますが、みなさんのご家庭では、お子さんは好き嫌いなく食事をされているでしょうか？『好き嫌い』ということだけでなく、食事のマナーなど、お子さんの食生活について今日は考えていきましょう。

では、まず、エピソードを紹介します。
 (ワークシートを配付し、エピソードを読む)
 このエピソードに書かれているように、まず、自分のお子さんの食事についての悩みや心配なことを書き出してみましょ。お机の上の付箋紙、1枚に1つ…書いてください。たくさんある方は、付箋紙を何枚使っていただいても構いません。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

では、付箋に書かれたことを、これからグループ内で発表してもらいます。お一人ずつ発表していただき、グループの中で模造紙に簡単に仲間分けしながら進めてください。

(予想される反応)

- ・好き嫌いが激しい。
- ・食事の量が少ない。
- ・箸の持ち方(使い方)が気になる。
- ・テレビを見ながら食事を取る。 など



では、グループでの意見を発表してください。
 (グループの発表をまとめながら…)
 食事のマナーや、好き嫌いなど、たくさん気になることはありますよね。その中でも一番気になるのは『好き嫌い』でしょうか？
 では、『好き嫌い』ということで、みなさんが子どもだった頃…苦手なものはありませんでしたか？ (ワークシートを配付しながら…)
 では、みなさんが子どもの頃を思い出していただき、苦手だったもの、またその理由や食べ物にまつわるエピソードなどをグループ内で紹介してもらいたと思います。

ワークシートの記入後、グループ内での発表。
(時間がなければ、すぐに発表に移ってもよい。)

(発表された内容をまとめながら…)

子どもの頃って、どなたでも何か苦手ものがあったそうですね。子どもたちの気持ちを考えると、無理強いをさせて食べさせることも難しいですね。でも、親、保護者としては、子どもが苦手なものを克服し、何でもおいしく食べてもらいたいですね。そのために、みなさんはどんな工夫をされていますか?それぞれのおうちで実践されていることや、みなさんが子どもの頃おうちの方が工夫されていたことを思い出してみてください。また、食事の好き嫌いだけでなく、食事のマナーなどを含めてくださっても構いません。これも付箋紙にまず記入した後、グループで発表していきたいと思います。それではまず、自分の意見を記入してください。



ワークシートの記入後、グループ内での発表。
(時間がなければ、すぐに発表に移ってもよい。)

(発表された内容をまとめながら…)

みなさんたくさんの工夫がありました。調理法だけでなく、味付けを変えたり、楽しく食事ができるようにしたりするなど、子どもたちに『食事』に対して興味や関心を高めていくことも大切ですね。

(必要な資料等を配付し説明した後に…)

それでは、今日の研修のまとめとして、これから…今日からご家庭で実践してみたいことなども含め、研修の感想をご記入ください。



Ⅲ-11 大人と子どもとケータイ・スマホ

①進め方

- ワーク1 スマホ・ケータイの良い点や便利な点を出し合う。
 ワーク2 エピソードを読み、親としてスマホと子どもとの関わり方を考える。
 ワーク3 身近な生活の中で気になる大人のケータイ・スマホの使い方について話し合う。
 ワーク4 自分の子育てについて振り返り、考える。

② 実践例

まずは、自己紹介をしましょう。今日、この会で呼んでほしい名前(ニックネーム)を黄色のふせん紙に書いて胸(名札)に貼ってください。マジックを使ってよく見えるように書きましょう。自己紹介では次の3つのことを話してください。①呼んでほしい名前②ケータイ・スマホを持ったのはいつか(何年前)。③子どもの頃、家でしていた遊び。(①②③については、ホワイトボードなど見えやすいところに板書しておく)

はい、それでは、皆さん、お互いに胸に貼った名札を見てください。名前が一番長い人は誰ですか。手を挙げてください。その方から自己紹介をします。あとは時計回りでいきます。それでは始めます。1人1分で自己紹介をします。用意はいいですか。用意、チン!

今日は、『大人と子どもとケータイ・スマホ』というテーマで進めていきます。皆さん、ケータイ・スマホはお持ちですか。私も先月、とうとうガラケーからスマホに替えました。なかなか使いこなせず、子どもに教えてもらってます。本当に凄い道具ができたと思います。

自分でもどう使ったら良いか分からないこの道具、子どもがどんな風に使っているのか、トラブルはないのか、とっても気になるところですよね。親として、どんなことに気をつけていけばいいのか、今日は皆さんで話し合いながら考えていきたいと思います。

さて、参加者の皆さんには今日の話し合いに際して3つの約束をお願いしています。(3つの約束を掲示し、読み上げて確認する)「平等」「尊重」「秘密」です。特に、秘密を守る事をお願いします。あの人はこんなことを言ってたなんて他人に言いつこなしですよ。今日のニックネームも、もちろん秘密ですよ。

【ワーク1】

それでは、ワーク1です。(用紙を配る)ケータイ・スマホの良いところ、便利なところは何か。ワークシートに書きます。いくらでも思い浮かぶだけ書いてみてください。

記入の様子を見て回る。(ここで考える時間はあまりとらない、1分程度)

では、グループ内で今書いたことを発表していきます。順番は、先ほどの自己紹介を2番目にした方からです。これも、1人1分でお願いします。用意、チン!

(予想される反応)

- いつでも、どこでも連絡ができる。(電話、メール、LINE、SNSなど)
- 知りたい情報をすぐに得ることができる。(ニュース、地図、店、音楽、動画など)
- 自分から発信ができる。(投稿、フェイスブック、ツイッターなど)
- 便利なアプリ、楽しいアプリがある。(ゲーム、健康チェック、スケジュール管理)
- 子どもへの連絡ができ、子どもの居場所が分かって安心できる。
- 写真や動画が簡単に撮れて、共有ができる。



はい、そこまでです。どのグループからも便利になったなあという声が聞こえてきました。おもしろい使い方をされている方もいらっしゃいましたよ。「……………」(時間があればファシリがピックアップして紹介する。)手放すと大変不便だと感じるかもしれませんね。

【ワーク2】

続いて、ワーク2に移ります。(エピソードを配る) 私がエピソードを読みます。(エピソードを読む)さあ、皆さん、どう思われましたか？光景が目には浮かんできたでしょうか。このときの女の子はどう思ったでしょう。女の子の気持ちを考えて、エピソードの下に書いてください。

記入の様子を見て回る。

それでは、お互いに書いたことを発表してもらいます。3番の方からです。少し時間をとりますので、全員が発表した後、自由に話し合ってみてください。はい、それでは3番の方からどうぞ。

(予想される反応：女の子の気持ち)

- ・お母さん、聞こえてないのかな。 ・見てほしかったなあ。
- ・お母さん、いつもスマホばかり見て、私の言うこと聞いてくれない。
- ・お母さん、忙しいのかな。 ・私よりスマホが大切なのかな。

(予想される反応：その他)

- ・少しでもいいから、立ち止まって見てほしいなあ。
- ・すぐには無理なら「ちょっと待って」などの理由を伝えてほしい
- ・ちゃんと見て、子どもの発見や感動をほめてあげたい。
- ・こんなことをしてたら2度と言わなくなるかもしれない。
- ・子どもの成長や感じ方を見逃している。もったいないなあ。



話し合いの様子を見て回る。後で紹介できるように情報を集める。

どれも同じような意見が聞こえてきましたね。女の子は、決して嬉しい気持ちにはならないですね。お母さんに、ちょっとでいいから、立ち止まって聞いてほしいなあという意見が出てましたね。子どもの成長や子どもの発見を認めるチャンスなのにもったいないなあという意見もありました。(その場で出ていた意見を紹介する)

【ワーク3】

では、次のワークに移ります。ワーク3です。先ほどのエピソードのように、他にも大人のケータイ・スマホの使い方ですごく気になるなあ、大丈夫かなあと思う場面がありませんか。例えば、「街中で」「電車で」「学校で」「お店で」「家庭で」「職場で」と考えてみてください。気になるなあということがあれば、今度は青色の付せん紙に書いていきます。1枚に1つの場面をお書きください。たくさんある方は、紙を何枚使っていただいても構いません。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

では、これからグループ内で発表してもらいます。今度は、4番の方から発表しましょう。付せん紙を一枚ずつ模造紙に貼りながら発表してください。持っている付せん紙を全部貼ったら、次の方と交替します。誰かと同じ意見、または似たような意見の場合は、近くに貼ってください。それでは、どうぞ！



(予想される反応)

【マナー】・(公共の施設等で)周りのことを考えずに電話をする。

- ・どこでも何でも画像を撮る。相手に許可もなしに画像を撮る。
- ・2ちゃんねるなどの投稿を見ると、大人として恥ずかしいと思う。
- ・車両運転中のケータイ使用。歩きながらのスマホ。

【子育て】・子どもと直接会話せずに、LINEやメールで会話をする。

- ・ネットやスマホへの依存。
- ・スマホが優先で、家事や育児を後回しにしてしまう。
- ・家族一緒に居てもケータイを触って、会話をしない。
- ・小さい子どもをあやすのにスマホのゲームや動画を使う。



話し合いの様子を見て回る。

いろいろと意見が出ましたね。どんな意見が出たか、グループで2つほど紹介してもらいましょう。では、全員回ったのでまた1番の人からですね。お願いします。発表できるのは2つですよ。前のグループとは違うものを発表してくださいね。では、1グループからお願いします。

各グループの発表。(できれば、ホワイトボードに板書する)

マナーについては、耳が痛いものもありますね。「急いでいて、ついっっかり」「分かってるんだけど」といいわけが聞こえてきそうですが、周りからすると迷惑な行為のようです。こんな姿を見てたら、子どもも真似しますよね。子どもに大人として社会のお手本となる姿を見せたいものです。

子育てに関する心配な意見も出てますね。「……………」(子育てに関する心配な意見をピックアップして紹介する)

先日、スマホ・ネットに関する研修会に出たのですが、最近、親子の会話が変わってきていると言われていました。同じ屋根の下にいるのに、1階にいる母親が2階の我が子にLINEで「ご飯できたよ」って知らせるんですって。その他にも、子どもを叱るときにLINEを使うとか…。確かにLINEは便利ですよ。言いにくいことも文字なら楽に言うことができます。でも、直接言わなきゃいけないことを、LINEで済まそうとするのはどうなのでしょう。また、相手の表情も見えなくて、どう思っているのか分からないですよ。実際、LINEやメールで「会社を辞めます」と上司に伝える若者がでてきているそうです。人と直接会話することが苦手な若者がどんどん増えてくるのでしょうか、心配ですね。便利だと思って使っていますが、私たち大人の使い方は本当にそれでいいのか、ふと立ち止まって考えてみる必要がありそうですね。

【ワーク4】

それでは、最後のワークです。スマホ・ケータイが社会に普及している今の時代に、子育てしていく上で、どのようなことに気をつけて過ごしていくとよいでしょうか。日々の生活で気をつけたいこと、大切にしたいことでも結構です。今度は、赤色の付せん紙に書きましょう。ケータイ・スマホに関することでも、子育て全体のことでも構いません。たくさんある方は、たくさん書いていただいて結構です。お書きください。

記入の様子を見て回る。

では、これからグループ内で発表してもらいます。順番は…。模造紙を裏返して貼っていきます。先ほどと同じように付せん紙を貼りながら発表してください。

(予想される反応)

- できるだけ子どもと会話をする。
- 夕食を家族そろって食事をして、会話をする。
- 土日などの休日にできるだけ家族がふれあう時間を作る。
- ケータイ・スマホのルールを家族で作し、子どもも大人も使い方を見直す。
- 外食などの際にケータイ・スマホを使わないようにする。
- 子どもの話をよく聞く。
- 子育てでめんどくさいを言わない。
- 便利な物に頼りすぎない。
- 時間がかかっても経験させたいことを大切に子育てをする。
- 体験活動を増やす



話し合いの様子を見て回る。

いろいろと意見が出ましたね。他のグループの意見も気になります。これから自由に動い
てもらって、他のグループの意見を見てもらいます。その時に、いいなあと思う意見、付
せん紙にシールを貼ってください。(シールを配る、または、最初から置いておく)10枚のシ
ールを全て貼ったら、自分の席に戻りましょう。それでは、どうぞ。
(シールを貼る時間がなければ、各グループで3つ発表してもらい、全体で共有する)

ほかのグループの模造紙を見て回る。全員が一通り見て回れる時間をとる。

はい、ありがとうございました。席へお戻りください。シールはどこにたくさん貼られていま
すか。それでは、グループで1つ発表してもらいます。シールがたくさん貼られているもの
でも良いですし、これをぜひ伝えたいというものでも構いません。1つ、決めてください。発表者は、
次の順番の人ですよ。では、○グループから発表しましょう。お願いします。

できれば、ホワイトボードに板書する。

結局、こうしてみると、子育てに大切なことは昔から変わらないのかもしれないかもしれませ
んね。しっかり子どもと向き合って関わっていくことが大切なんですね。ここで、皆さんに資料を配ります。こ
れは、就実大学の非常勤講師をされている筒井先生からのメッセージです。今日は、これ
を読んで終わりにしたいと思います。(資料とふりかえりシートを配る)(資料を読む)

最後に本日の感想やこれから実践してみたいことをふりかえりシートにご記入ください。

ふりかえりシートを記入、グループ内での発表。
(時間がなければ、早く書けた人を指名して発表してもらう。)

皆様、お疲れさまでした。皆様のご協力により、無事にプログラムを終了することができ
ました。ありがとうございました。

本日のプログラムは、スマホ・ケータイについて取り上げましたが、子どもたちが巻き込ま
れるかもしれないトラブルや危険性には触れませんでした。保護者の方にとってはそれにつ
いてもしっかり知っていただく必要があります。常に最新の情報を気にしていただけられ
ばと思います。今日は、岡山県教育委員会が作成しました資料を用意しております。後ろ
に置いておりますので、ぜひお持ち帰りください。(資料印刷できなければ、URLを紹介)

Ⅲ-12 子どもはどこで育つの？～開かれた子育て環境～

①進め方

- 導入 子どもの頃、学校や家庭以外の場でどんな経験をしたのかを想起する。
- ワーク1 自分の周り(地区)にはたくさんの教育環境(学校や家庭以外の場)があることに気づく。
- ワーク2 「子どもにとって」と「親にとって」の2つの視点から「場」を考えたり、他の保護者の価値観を知ることで、新たなよさを感じ、開かれた教育環境で子どもを育てていきたいという思いをもつ。

② 実践例

こんにちは。皆さん、毎日の子育て、本当にお疲れ様です。今日はここにお集まりいただいた皆様と「子育ての環境」について一緒に考えていければと思っています。

では、まずは自己紹介をしたいと思います。自己紹介では次の4つのことを話していただきます。①呼んでほしい名前(ニックネーム) ②住んでいる地区 ③趣味 ④自分の子どもの頃のプチエピソードです。

「自分の子どもの頃のプチエピソード」って何と思われたと思いますので、これから例となりますエピソードをいくつか聞いていただきます。【エピソードを読む】

イメージはわかりましたでしょうか。今のエピソードのようにみなさんも、子どもの頃、学校・家庭以外の場でいろんな経験をされていると思います。

そこで、みなさんにも、「学校・家庭以外の場でどんなことをやっていたのか、そしてどのようなよかったことがあったのか」というプチエピソードをお話していただきたいと思います。

では、机の上のA4の用紙を1人1枚お取りになって、見本のように紙を4等分に折っていただき記入してってください。2分後にグループ内で発表をしていただきます。質問はありませんか。

それでは、前に向かって机の右前に座られている方から自己紹介をしてください。あとは時計回りでいきます。それでは始めます。1人1分で自己紹介をお願いします。用意はいいですか。用意、チン!

(終わったら用紙を三角柱に折って机の上に置き名札の代わりとする。)

・趣味
・住んでいる地区
・名前
・自分の プチエピソード



【導入】

それでは、はじめに参加者の皆さんには今日の話合いに際して3つの約束をお願いします。(3つの約束を掲示し、読み上げて確認する)「平等」「尊重」「秘密」です。特に、秘密を守る事をお約束お願いします。後で、あの人はこんなことを言ってたなんて他人に言うのはダメですよ。

先ほど皆さんの自己紹介の中でもありましたように、(いくつか例を紹介する)学校・家庭以外のいろいろな場で様々な経験をされ、それがご自分にとってよかった、大切だったと語られておられました。これは、データでも示されています。こちらのデータを見てください。例えば「地域活動」に参加したことが多い子どもたちほど、「自尊感情」や「文化的作法・教養」が高いという結果が出ています。また、「自然体験」が多い子どもたちほど、「職業意識」や「規範意識」が高いという結果も出ています。「近所の小さい子どもと遊んであげたこと」についても……。やはり、皆様が体験されましたように、様々な場に出ていき、たくさんの人とふれ合って育っていく力というのは、人格形成にとっても大切なことだと感じますね。

【ワーク1】



それでは、ご自分のお子様たちの周りにも、このような場があるでしょうか。みなさんで考えてみたいと思います。みなさんの周り(この地域)にはどのような「場」があるでしょうか。机の上にあります箱の中に付せん紙が入っておりますので、黄色の付せん紙を取っていただいて、その付せん紙1枚に1つの「場」を書いていってください。たくさん思い浮かぶ方は何枚書いていただいても構いません。2分ほど経ちましたらグループ内で共有したいと思いますので、まずは個人で取り組んでください。

自分の地域の「場」を具体的に記入してもらおう。(プログラム後に公民館や子育てサロンなどに掲示したり、お土産として持って帰ってもらえるように)。(ここで考える時間は2分程度)

(予想される反応) ・○○スポーツ少年団 ・○○祭り ・○○地区太鼓クラブ
・放課後教室○○ ・○○土曜講座 ・○○塾 ・学童・公民館の○○講座
・○○科学館の親子講座 ・○○子育て広場 ・○○さん家の○○ など



では、今書いたことをグループ内で発表していきます。順番は、先ほどの自己紹介で2番の方からです。グループの中で紹介し合って模造紙に貼っていってください。発表の際、似たような物がありましたら近くに貼って行って、グループにしていってください。グループができましたら、カラーのマジックで囲んで、グループの分類名を書いていってください。もし、どのような「場」なのか詳しく聞いてみたいことがありましたら、お互いに質問し合ってください結構です。



では、それぞれのグループで出た意見を他のグループへも紹介をしていただきたいと思います。右側のグループから順にお願いします。(発表)
いろいろな方々のお話を聞くことで、ご自分の今まで知らなかった場を知ることができ、皆さんの中で選択肢も増えたのではないのでしょうか。また、グループの中で一緒に行ってみようという声も聞こえてきました。ここもネットワークが広がる1つの場となったようで、よかったです。

では、次のワークに移ります。まず、今みなさんに出していただいた「場」を分類していただいた中から、グループで3つ選んでください。例えば「スポ少」と「地域の行事」と「習い事」とか。

【ワーク2】



次に、その「場」を2つの視点で見たいと思います。「子どもの視点」と「親の視点」です。「子どもの学びにつながる度」と「自分(私)がハードルを感じる度」で5段階評価をしてみてください。まずは個人で取り組んでいただき、5分ほど経ちましたらグループ内で共有したいと思います。では、始めてください。(個人で5段階評価)

ハードルについては質問が予想される。物理的・心理的様々なものすべて出してもらおうようにする。(少し時間をとる。5分程度)


それでは、グループの中で共有していきます。グループに1枚大きな表がありますので、そこに皆さんが付けた5段階評価を書き込んでいってください。できましたら、それぞれの項目に対して、お互いに「なぜそうしたのか」「どんな学びがあったのか」などご自由に質問をしていってください。

(予想される反応)

「Aさん、地域の行事が5になってるのですが、お子さんにどんな学びがあったのですか。」「実は、この前の夏祭りの盆踊りの練習をしていた時なんですけど、うちの子内気だと思っていたんですが、自分から小さい子どもに教えてあげてびっくりしたんですよ。指導者の〇〇さんもすてきな方よ。」

「Bさん、なんで〇〇のハードルを2にされたんですか。」「最初は子どものためにと行って行ったんですけど、今は自分の学びになってるなって思うんよ。…」

ここでどんな子どもの学びにつながったのかという話が実例を挙げながらできるようにしたい。また、話し合いの中では、「他の方の視点」でもみることができ、新しい価値観にふれ、自分の価値観を広げていくことができるようにする。



では、それぞれのグループで出した意見を他のグループへも紹介をしていただきたいと思います。こちらのグループからお願いします。(全体で発表)

ありがとうございました。こうやってみなさんで共有していくと、「あっ、こんな場があったんだ。」と初めて知ったことや、お互いの話を聞く中で、「ここはうちの子にとって良さそうだ、行ってみようかな。」という思いをもたれた方もいるのではないかと思います。


今回のテーマは「開かれた子育て環境」ということで、みなさんの周りの教育環境について考えていただきました。

では、ここで言う「開かれた」というのは、どういうことだったのでしょうか。どうやったら開かれるのでしょうか。それは、今の自分の見方だけにとらわれず「周りを受容していく」ということだと思います。

今回のワークでは、まず「子どもの視点」と「親の視点」で見させていただきました。そして、後の話し合いを通して「他の親にとっては」「他のお子さんにとっては」とさらに考えていただきました。こうやって複数の目をもって1つ1つのことを見ていくということがとても重要なのだと思います。この活動は子どもにとって学びがあるからといって、自分がとても無理をして行かせる必要はありません。視野を広くもって他の活動を見つけていけばよいのです。

では、今日まとめとして、話し合いの中で自分が思ったことや考えたこと、新しく得た情報などをご記入ください。

【ふりかえり】



ふりかえりシートを記入(2分)、グループ内での発表(3分)。
(時間がなければ、早く書けた人を指名して全体に発表してもらおう。)

皆様、お疲れさまでした。皆様のご協力により、無事にプログラムを終了することができました。ありがとうございました。

IV-1「思春期の心 ～青春時代へタイムスリップ～」

① 進め方

- ワーク1 自分の思春期を思い出し、当時の親との関わりや親に対する思いを振り返る。
 ワーク2 思春期の子どもの変化について話し合うことで、子どもに対しての理解を深める。
 ワーク3 思春期の子どもとのよりよい関係づくりについて考え、全体で共感・共有する。

② 実践例



思春期は、保護者にくっついたり、離れたりしながら成長していく時期です。気持ちが不安定になり、保護者や先生に反抗したり、何となくイライラしたり、無気力になったりするようになることは、思春期では当然の変化といえます。保護者の方も、そんなわが子に腹が立ったり、どんなことが起こるのか不安になったりしますよね。

われわれ大人は、みんな経験してきたはずの思春期ですが、いざ我が子が・・・となると、なぜ動揺してしまうのでしょうか。

今日は、自分の青春時代にタイムスリップして、思春期真っ只中の子どもたちとの関わり方について考えてみましょう。

ワークシート1の配付

4つの項目がありますが、自分がわが子と同じ年齢だった時のことを思い出して

- ◇好きな教科、嫌いな教科
- ◇思い出に残っていること(学校行事以外で、友だちや好きだった人のこと、地域や家族での思い出でもいいです。)
- ◇夢中になっていたこと(部活や趣味、特技など)
- ◇好きだった芸能人

を思いつくままに書き出してみましょう。そのことに関わるエピソードもあれば、簡単にメモしておきましょう。

それができたら、続けて、今のわが子を見て、自分の思春期の頃と「同じだなあ」と思うことや自分はどのように保護者と関わっていたか、どのように保護者のことを思っていたかなどを振り返り、書いてください。

記入の様子を観察する。

さあ、どのようなことがあったでしょうか。
 では、グループで「私の思春期」4つの項目と、自分の思春期を振り返ったことについて話し合ってください。





では、どのようなエピソードが出てきたでしょうか。
グループで出したことを少し紹介してください。

一つか二つのグループに発表をしてもらおう。

やはり自分もわが子と同じだったなあということがいづらか確認できたのではないかと思います。親に対しても少し距離をおいていたこと、自分と友だちの世界で親からは離れようとしていたということも思い出されたのではないのでしょうか。

ワークシート2の配付



今度は、みなさんのお子さんが、思春期に入る前と比べて、こんなところが変わったなあというところを思い出してください。

4つの項目「親や家族との関係」「学校生活や私生活に関して」「友人との関係」「その他」について例を示していますように具体的に書き出してください。ついついマイナス面に注意が向きがちですが、「自分のことは自分でできるようになっている」などプラス面の変化も記入してくださいね。

記入の様子を観察する。

いくつかメモし、これはと思うものについては、グループでの話し合いの後、全体に広げる場合があってもよい。

(予想される反応)

<保護者や家族との関係(会話などから気付いたこと)>

- 何か聞くと「別に」「何も」の返事が多い。
- 物にあたる。(冷蔵庫や戸をバンと閉める。)
- 注意しているのにすぐに直そうとしない。(いくら言っても直さない。)
- 注意すると言いつつ、指示をすると、文句を言う。
- 夕食の手伝いやお風呂洗いをしてくれるようになった。
- 雑誌が「○○○」とか、ちょっとお姉ちゃんになってきた。

<学校生活や私生活に関して>

- 無気力になりがち。
- 苦手なことと自信の持てることがはっきりしてきて、苦手な部分に消極的。
- 家族で楽しむこともあるが、最近は一人で部屋で過ごすことが多い。
- 中学に入学してからは自分から進んでボランティアなどをするようになった。

<友人との関係>

- 男の子はあっさりしている。
- 部活の友達、クラスメイト、他地区の小学校の友だち等、交友関係は広い。
- 幼小中で1園、1校で付き合いが長いので友人関係が深い。

<その他(自立したことなど)>

- 親を介さずに友達との関係で解決できることが増えた。
- 部屋をきちんとそうじするようになり、プリント類もきちんと整理している。
- 何でも自分でしたがるようになる。
- 部活に夢中。





では、記入したお子さんの変化について、気づいたことをグループで話し合います。これから話し合われることは、あまり知られたくないプライバシーに関することが多いと思います。この場だけの秘密にして、他言しないことをお約束ください。

グループ内の発表後、全体へ共有し、思春期の子どもに対しての理解を深める



いかがでしたでしょうか。
改めて子どもの変化や自分を振り返り、互いに話し合うことで、お子さんの新たな変化や成長について再発見することができたのではないのでしょうか。

時間があれば、話し合いを観察する中で、「これは」と思った感想を例として紹介してもよい。グループの話し合いの内容によっては、子どもの見方を変えてみる「リフレーミング」の例を紹介する。

《リフレーミング 例》

- 短気な → 心の表現が素直な
- 反抗的な → 自分の力でやっつけられる
- がんこな → 意志が強い 信念がある
- 乱暴な → たくましい

ワークシート3の配付



では、思春期真っ只中で変化している子どもたちに私たち親はどう接していけばよいのでしょうか。

ワーク1での自分自身の思春期時代とワーク2でのわが子の思春期真っ只中での変化をもとに書き出してみましょう。

(予想される反応)

- 思いは伝えるが、本人の意思を尊重し、自己決定できるような会話を心がける。
- 少し離れて、でも目は離さず。
- 父親と話をしなくなる場合は、母親を通じて思いを伝える。
- 自立を応援できるよう、自分の経験もふまえて相談できるような関係をつくる。
- 学校で何があったかなど、とりあえず聞き、言いたくなったらじっくり聞いてやる。
- 「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」など、あいさつをして会話を増やす。
- 「ずっと見てるよ」「いつもそばにいるよ」というメッセージを送る。
- 良い面を伸ばしてやる。(部活のサポート:部活外で練習)
- 一緒に何かをする時間をつくる。(読書・食事・スポーツなど)



グループで話し合いの時間をとり、内容をグループごとに発表してまとめとする

ありがとうございました。とても参考になる情報が交流できました。

資料や家庭教育資料の説明を行う

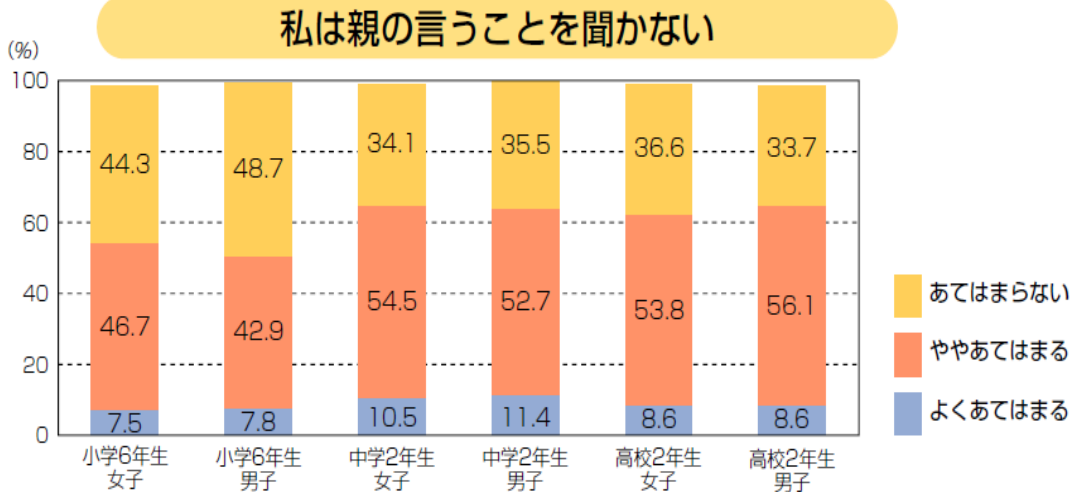


思春期は、親や先生に反抗したり、イライラしたり、無気力になったりする、そういう時期なのです。「うちの子だけかしら」と不安になったり、腹が立ったりする場合もあるとは思いますが、今日みなさんで互いに感じたこと、考えたことを今後の子育てに生かしていただき、ゆったりと構えて、思春期のお子さんと向き合っていただきたいと思います。

思春期の子どもと向き合い、見守る

家庭教育手帳 小学生（高学年）～中学生編 3. 思春期より抜粋

※ 家庭教育手帳のデータは、岡山県教育庁生涯学習課のホームページより、ダウンロードできます。



(注) 各学年、約2,000人を対象に調査

資料:「児童生徒の心の健康と生活習慣に関する調査」平成14年・文部科学省

言うことを聞かないのは、 子どもの自立が始まった証拠。

親にとってみれば、「こんな子ではなかった、どうしたものか」ととまどうでしょう。子どもの複雑な思春期の始まりです。この時期は、子どもの大きな変化の助走期ともいえます。

この時期に子どもが言うことを聞かなくなっても、いたずらに動揺したり抑えつけたりする必要はありません。それは子どもの自立や親離れが始まった証拠です。むやみな干渉やお説教はできるだけ控えて、子どもの力を信じながら、あたたかく見守りましょう。ただし、腫れ物にさわるように接するのではなく、これまで以上に会話などを通じてかかわる努力が欠かせません。その際には、行動の結果にはきちんと責任が伴うことを自覚させることも大切です。

IV-2 「子どもの『携帯電話』どう考える？」

① 進め方

ワーク1 「携帯電話」と「ケータイ」の言葉のイメージについて話し合う。

ワーク2 子どもの携帯利用をめぐる危険な現状・実態について知り、対応の必要性に気づく。

ワーク3 携帯電話のトラブルや依存を防ぐために、家庭(親)でできることを考える。

② 実践例



それでは今日は「子どもの『携帯電話』どう考える？」というテーマで進めていきます。まず、お子さんが「携帯電話」あるいは「スマホ」を所持しているかどうかを聞いてみましょう。「携帯電話」あるいは「スマホ」をお子さんがもっているという方、挙手をお願いします。

(ほとんど手が上がると予想される。所持していない方がおられたら、その理由を聞いてみるのもよい、)

そうですね、高校生、中学生になるとほとんどが持っているようです。中には、小学生でも持っている子を見かけますよね。

それでは『携帯電話』という表現と、カタカナで『ケータイ』という言葉からどんなイメージを持たれますか。まずはグループの中で自由に話し合ってもらおうと思います。では、司会の方よろしくをお願いします。

グループを周り話し合いの様子を観察する。ワーク2へつなげる会話等に注目する。

(予想される反応)

○『携帯電話』だと、昔の古い感じがする。」

○『ケータイ』は誰でも使えそうな、簡単なイメージがある。」 等



(終了の合図)

どんなイメージの違いがありましたか？グループの様子を少し聞かせてもらいましょう。各グループの発表の方よろしくをお願いします。

(いくつかのグループに発表してもらおう。)

ありがとうございました。『ケータイ』というと、何となく誰でも、簡単に操作できそうなイメージがありますね。その簡単な、遊び心で…こんな事件も起こっています。

(子どもの携帯利用に絡む新聞記事等の資料を配付しワーク2にうつる。)



では、今お配りした記事をそれぞれ読んでみてください。

(各自 黙読してもらおう)

それでは、どうでしょうか？まず、この記事に関してご感想をお聞きしたいのですが？

(何人かに発表してもらおう)

ありがとうございました。他にも、『携帯』に絡む事件、犯罪、被害等があると思いますが、みなさんが知っていることなどをこれからグループで出し合ってみましょう。では、司会者の方よろしくお願ひします。

(予想される反応)

- 「SNSを使つての事件がよく載っている。」
 - 「事件ではないが、携帯を学校へ持つていってトラブルになったことがある。」
 - 「友達同士の人間関係に影響を与えている。」
- 等



グループでどんなトラブル、事件が出ましたか？ グループでの話を教えてください。
(グループの話し合いの概要を発表してもらおう。)

たくさんトラブル、携帯への依存など、問題点がたくさん出ましたね。では、こうした『携帯電話』のトラブルや依存を防ぐために、家庭でできること、保護者(親)としてどんなことに取り組んでいくことが大切か、また、実際に取り組んでいることなどを考えてみましょう。まずは、付箋紙に、お一人お一人の考えを付箋紙1枚に一つずつ記入しましょう。あまり長く書く必要はありません。キーワード的な言葉を記入してもらって、できるだけたくさん枚数を書くようにしてください。では、お願ひします。

記入の様子を観察する。



では、記入したことについて、グループの中で話し合つていただきます。まず、お一人の方が付箋紙に書かれた一つの項目について簡単に説明します。それについて、同じだとか、似たような意見を書かれている方は、どんどん出し合つてください。出し尽したら、次の方の新しい意見にうつつていただき、同じように進めていってください。よろしいでしょうか？ それでは、司会の方よろしくお願ひします。

グループの様子を観察する。

(予想される反応)

- 『携帯』の必要性について、子どもとしっかり話し合つていくことが大切。
 - フィルタリングやアクセス制限を親の義務としてかけることが大切。
 - 『携帯利用』のルールを子どもと話し合つて作つていきたい。
 - 親が携帯電話等に関する情報を共有し、使い方などの知識も持つておくことが大切。
 - 親同士が連携し、ルールづくりを進めていく。また、学校全体(中学校区などで)で取り組んでいく必要もある。
- 等





各グループでの話し合いは終わったでしょうか。それでは、また、グループでの様子をみなさんに伝えてもらいたと思います。
(いくつかのグループに発表してもらおう)

ありがとうございました。
それぞれのグループでいろいろな方法が出されました。今日出されたたくさんの意見をもとに、それぞれの家庭でぜひ取り組んでいていただきたいと思います。またその際、保護者(親)としての義務として取り組むこと、子どもと話し合いながら決めることに分けて考えていくことも大切ですね。

※時間等に余裕があれば、トラブルに巻き込まれた場合の対応・相談窓口等の紹介をする。



IV-2<アレンジ版> 「大丈夫？子どものケータイ・ネット」

※親プロ「子どもの『携帯電話』どう考える？」と

PTA人権教育研修プログラム「大丈夫？子どものケータイ・ネット」を基に作成

①進め方

ワーク1 子どものケータイ・スマホ等の利用実態や問題点について話し合う。

ワーク2 子どもの携帯・スマホ・SNS利用のトラブルや依存を防ぐために、家庭(親)でできることを考える。

ワーク3 我が家のルールづくりをする。

② 実践例



テレビや新聞でケータイやスマホ、SNSのニュースがよく取り上げられていますよね。今日は、『大丈夫？子どものケータイ・ネット』をテーマにみんなで考えていきます。まず、お子さんのケータイやスマホ、ネットの利用について、気になっていることや困っていることを話し合しましょう。お子さんのことではないけれど、問題だと思っていることでもかまいません。グループの中で自由に話し合しましょう。では、司会の方よろしくをお願いします。

グループを周り話し合いの様子を観察する。ワーク2へつなげる会話等に注目する。

(予想される反応)

- ゲームにはまっている。 ○食事中にもメール。(すぐ返信しないと…)
- 迷惑メール・出会い系から犯罪に巻き込まれないか心配。
- 知らない人とつながっていないか。 ○友達とのトラブル
- 高額請求 ○依存 ○親子の会話が減る。 等



(終了の合図)

どんな問題や気になることがありましたか？グループの様子を少し聞かせてもらいましょう。各グループの発表の方よろしくをお願いします。

(いくつかのグループに発表してもらおう。)

ありがとうございました。(全体発表を受けて、いくつか拾い出す。全体発表で出なかった事例について、子どもの携帯利用に絡む新聞記事等の資料を配付し紹介する。)

- ・「アイポッド」「DSなどのゲーム機」「ライン」も通信機能があり世界中の人とつながる。
(知らないのは親だけ。「うちの子は大丈夫」ではない現状)
- ・リベンジポルノ(親には知られたくない。子どもが打ち明けにくい問題)

一度このような問題が起きてしまうと、関わりのある人、全員を不幸にします。ネット上にアップされると消すことはなかなかできません。たった1回の軽はずみは投稿画像やつぶやきで一生を棒に振ることも。誰が子どもを守るのでしょうか。……親ですよ。



では、こうした『携帯電話』のトラブルや依存を防ぐために、保護者（親）としてどんなことに取り組んでいくことが大切か考えましょう。まず、こんなことをしている、まだやっていないけどやってみたいということを付箋紙1枚に一つずつに書いてみましょう。あまり長く書く必要はありません。キーワード的な言葉を記入して、できるだけたくさんの枚数を書くようにしてください。

グループの様子を見て回る。

そろそろ、よろしいでしょうか。まず、お一人の方が付箋紙に書かれた一つの項目について簡単に説明します。それについて、同じだとか、似たような意見を書かれている方は、どんどん出し合ってください。出し尽くしたら、次の方の新しい意見にうつっていただき、同じように進めていってください。それでは、司会の方よろしくお願ひします。

グループの様子を観察する。

(予想される反応)

- 本当に必要か子どもと一緒に考える。
- 他人の悪口は書かない。
- 9時以降は家族のスマホを1カ所に集めておく。
- 親も食事の時は使わない。
- フィルタリング・アクセス制限をかける。
- ケータイ以外の団らんの場をもつ。
- 子どもと一緒にルールを作る。
- PTAとして話し合う。等



各グループでの話し合いは終わったでしょうか。他のグループでどんな意見が出ているのか、見てまわしましょう。「あっ、これいいな。」「自分もやってみたい!」と思うものには「いいね」シールを貼りましょう。(印を付けても良い。)

(他のグループを見てまわる。)

それでは、元の席へお戻りください。
シールが多かった意見をみなさんにお伝えください。
(いくつかのグループに発表してもらおう。)



(予想される反応)

- 『携帯』の必要性について、子どもとしっかり話し合っていくことが大切。
- フィルタリングやアクセス制限を親の義務としてかけることが大切。
- 『携帯利用』のルールを子どもと話し合っ作っていきたい。
- 親が携帯電話等に関する情報を共有し、使い方などの知識も持つておくことが大切。
- 親同士が連携し、ルールづくりを進めていく。また、学校全体(中学校区などで)取り組んでいく必要もある。等



わが家で子どもと一緒にルールを考えると、親として提案したいルールを3つぐらい考えてみましょう。

(各自記入)

どんなルールを考えたか、グループの中で出し合ひましょう。司会の方、お願ひします。



(予想される反応)

- 夜〇時以降は使用しない。(居間などに置いておく。)
- 自転車に乗りながらなど、何かを「しながら」使用しない。
- プロフ等に個人情報や顔写真を掲載しない。
- 困ったことやトラブルに巻き込まれた時は、必ず相談する。
- 保護者が必要と認める時は、子どものケータイ・スマホをチェックできる。 等



ありがとうございました。

それぞれのグループでいろいろな方法が出されました。今日出されたたくさんの意見をもとに、それぞれの家庭でぜひ取り組んでいていただきたいと思います。その際、保護者(親)としての義務として取り組むこと、子どもと話し合いながら決めることに分けて考えていくことも大切です。

さらに、ルール作りの前に、「本当に情報機器が必要かどうかを一緒に考える」ことも必要です。そして、ルールを一緒に考え、一緒に決めたら、子どもに守らせたいですよ。そのためには「1.文章化する。2.紙に書く。3.見える所に貼っておく。」というのがコツで、常に見守り、定期的チェックすることも重要です。

子どもとの日々のコミュニケーション(挨拶、声をかける、気にかける、見守る、一緒に食事をする、おしゃべりや遊び等)を大切にしながら、子どもにコミュニケーション能力、マナーを身に付けさせていきましょう。

そのためには保護者自身の「情報モラル」「日常モラル」が重要で、親自身も子どもと一緒に学んでいきましょう。



※時間等に余裕があれば、トラブルに巻き込まれた場合の対応・相談窓口等の紹介をする。

→県教育委員会人権教育課HP

「インターネット上のトラブルについての情報・相談窓口」

<参考資料>

「情報化社会の新たな問題を考えるための教材
～安全なインターネットの使い方を考える～
指導の手引き」

ワークシート例

大丈夫？ 子どものケータイ・ネット

ワーク1

子どもの携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用実態、そしてトラブルについて、話し合います。

☆1日の利用時間は？ ☆よく使う時間帯や場所は？ ☆よく利用する機能は？

☆1日のメールのやりとりの回数は？

☆子どもは自分のプロフ・ブログを開設してる？ など

ワーク2

トラブルや依存を防ぐため、親として、家族としてできることを話し合います。

※付せん紙に書きましょう。(1枚に1つのことを。何枚でもOK！)

ワーク3

わが家のルールをつくってみましょう。

-
-
-

ふりかえり

IV-4 「揺れ動く『新思春期』」

① 進め方

- ワーク1 思春期の子どもをもつ親の不安な気持ちに共感し、自分の関わりについて振り返る。
- ワーク2 思春期の子どもの変化について話し合うことで、子どもに対する理解を深める。
- ワーク3 思春期の子どもとのよりよい関係づくりについて考え、全体で共感・共有する。

② 実践例



思春期の入り口は、特に、精神的にも肉体的にも変化し、成長しています。自分自身も経験してきた時期とはいえ、この時期の子どもの変化に、不安やいらだちを感じてしまうことはありませんか。

子どもの様子に腹が立ったり、不安になったりしますが、この思春期こそが、子どもたちが自立へと向かう大切な時期です。

今日はみなさんと一緒に思春期の入り口にさしかかった、あるいは思春期真っ只中の子どもとの関わりについて考えてみましょう。そして、お子さんと関わりをしっかりともちながら、広い心で見守ることができるような方法を探してみましょう。

では、こんなエピソードを紹介します。

(エピソードを配付し、読む)

さあ、みなさん・・・この親の方の気持ちに共感できますか。それはどんなことですか。感じたことを少しグループで出し合ってみてください。

(予想される反応)

- この方の気持ち、分かる！我が家も子どもとの関わりが難しくなってきた。
- うちの子も同じ。注意すると言い訳したり文句を言ったりして言うことを聞かない。
- 私も負けずに言い返すので、うちはよくけんかになってしまう。
- 反抗期だから仕方ないんだけど、どう関わっていくのがよいのか分からない。
- 我が子は甘えん坊で反抗期はまだまだ。よく言うことを聞いてくれます。
- うちの子は素直で、親の言うことはよく聞いてくれるので、イメージしづらい。



話し合いで出た意見を一つか二つのグループに発表してもらおう。



ありがとうございました。

このエピソードのCさんのような行為は、ちょうど思春期であるみなさんのお子さんにもあてはまることがあるのではないのでしょうか。そんな子どもとよりよく関わられるように考えていきましょう。



今度は、みなさんのお子さんとの関わりについて振り返ってみてください。
子どもとの関わりの中で、「困ったな」とか「不安だな」それどころか「こんな事件があったんです」ということはありますか。
言葉遣い、態度や行動、表情やしぐさはどうですか。
まずは、悩みや不安なことについて書き出してみましょ。
お机の上の青色付箋紙、1枚に一つ…書いてください。たくさんある方は、付箋紙を何枚使っていただいても構いません。ではどうぞ！

記入の様子を観察する。



今度は、わが子の様子で、「がんばっているなあ！」「しっかりしているなあ。」「大きくなったなあ。」「時代じゃなあ、今の子はすごい！」など成長を感じるということを書き出してみましょ。
今度は、赤色付箋紙の方に同じように1枚に一つ…書いてください。ではどうぞ！

記入の様子を観察する。

(予想される反応)

<困ったこと・不安なこと>

- 何か聞くと「別に」「何も」の返事が多い。
- 学校から帰ると自分の部屋へ行き、一緒に過ごすことが少なくなった。
- 注意すると言いつけや文句を言う。
- 帰宅時刻が遅くなってきた。

<成長を感じること>

- 家の手伝いをするようになった。
- 親を介さずに友だちとの関係を解決することができるようになった。
- 苦手なこと、今すべきこと等、自分のことを客観的に見ることができるようになった。
- 中学に入学してからは自分から進んでボランティアなどをするようになった。



それでは、付箋に書かれたことを、これからグループ内で発表してもらいます。
これから話し合われることは、あまり知られたくないプライバシーに関することが多いと思います。この場だけの秘密にして、他言しないことをお約束ください。
お一人2分くらいずつで、順番に、今書いていただいた青い付箋と赤い付箋の内容を紹介してください。付箋を模造紙に貼りながら順番に発表していきましょう。同じ意見や考えは同じところにまとめて貼っていきましょう。

話し合いの様子より、必要に応じて、資料①を紹介する。



ありがとうございました。グループでどんなことが出たでしょうか。簡単に教えてください。

2グループぐらいに発表してもらおう。

時間があれば、話し合いを観察する中で、「これは」と思った感想を例として紹介してもよい。グループの話し合いの内容によっては、子どもの見方を変えてみる「リフレーミング」の例を紹介する。

《リフレーミング 例》

- 短気な → 心の表現が素直な
- 反抗的な → 自分の力でやっていける
- がんこな → 意志が強い 信念がある
- 乱暴な → たくましい



思春期のわが子たちにどういった接し方が大切だと考えますか。思春期の子どもの変化をよりよい次のステップへつなげるための関わり方のポイント、更なる成長を促す関わり方のポイントにはどんなことがあるでしょうか。今度は黄色の付箋紙に思春期の子どもたちへの関わり方のポイントを書き出していってください。先ほどの同様に、1枚に一つ記入してください。それでは、どうぞ。

記入の様子を観察する。



よろしいでしょうか。では、またグループの中で話し合ってみましょう。同じような関わり方、声のかけ方があったら、その近くに貼っていってください。ではどうぞ。

グループで話し合いの様子を観察する

(予想される反応)

- 思いは伝えるが、本人の意思を尊重し、自己決定できるような会話を心がける。
- 少し離れて、でも目は離さず 子どもを追いつめないような関わり方が大切。
- こちらの考えを主張しすぎず、子どもの話を聞くことが大切。
自分を分かってくれていると子どもが感じれば、心を開き、よい関係づくりができる。
- 自立を応援できるよう、自分の経験もふまえて相談できるような関係をつくる。
- 「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」など、あいさつをして会話を増やす。
- 趣味を通して、人生観を語る。
- 良い面を伸ばしてやる。(部活のサポート:部活外で練習)
- 一緒に何かをする時間をつくる。(読書・食事・スポーツなど)





各グループの発表は終わっただいしょうか。他のグループでどんな意見が出てきたのか、見てまわりましよう。「あつ、これいいな。」「自分もやってみたい！」と思うものに「いいね」のシールを貼りましよう。(印を付けてもよい。)

他のグループの考えたポイントを見てまわる

それでは、元の席へお戻りください。
シールが多かった意見やグループで出てきた意見で「これは」と思うものをみなさんにお伝えください。

全体へ共有し、思春期の子どもへの関わりに対しての理解を深める



ありがとうございます。
それぞれのグループでいろいろな方法が出されました。

資料②等を使用し、まとめをする

思春期は、親や先生に反抗したり、イライラしたり、無気力になったりする、そういう時期なのです。「うちの子だけかしら」と不安になったり、腹が立ったりする場合もあるとは思いますが、今日みなさんで互いに感じたこと、考えたことを今後の子育てに生かしていただき、ゆったりと構えて、心地よい距離感で、思春期のお子さんと向き合っていたいただきたいと思います。

【エピソード】

思春期入り口のCさんは、親の話をほとんど聞こうとしません。反発や反抗も増えてきました。親は…

『最近、子どものことがよくわからなくなった。以前は、よく言うことをきいていたのに…。ちょっとたずねたら、「別に」とか「うるさい」しか言わないし。反抗期があるのはわかっているけど、少し心配で…。子どもに対する接し方が、だんだん難しくなると思うと気が重くなります…。』

資料① (手持ち) こんなことでお困りではありませんか？

- 反抗期で親の言うことを聞かない
- 子どもの気持ちがわからない
- 何度言っても聞かないので怒ってしまう
- 叱ってばかりでいやになる
- 子どものほめ方がわからない
- やる気の出させ方がわからない
- 子どもと会話がなくて寂しい
- 会話が續かなくて困っている
- 子どものしかり方がわからない

資料② 「親子のコミュニケーションがよくなる魔法をかけませんか？」

1 子どもの話を聞く

ありきたりですが、どれかひとつと言われればこれに尽きます。

いくつになっても子どもは親に自分のことをわかって欲しいのです。子どもの自慢話も悩みも、ムカついた話も、なんでも聞きましょう。意見は求められた時だけするようにしましょう。

最初は否定も肯定もせずにただただ全部聞くのがよいです。

2 自分のことを話す

「子どもには何も心配させたくない」といって何も自分自身のことを話さないことが果たして親として一番よいことでしょうか？親だって一人の弱い人間で、悩みもあれば情けない面もあります。

立派な親を演じることが、必ずしも親子関係をよくするとは限りません。

自分が過去通って来た道、そして現在の状況で、話せることは率直に話してみましょ。

「昔の学校生活」「恋愛の話」「仕事の話」「失敗したこと」「成功したこと」「生活のこと」「悩んでいること」「夢」など。

親が語る言葉は子どもの心にきっと響きます。お説教ではなく、友人に話すように話してみましょ。

そして意見も聞いてみましょ。また、違った発見があるかもしれません。

3 共有できることを増やす

「趣味友」という言葉がありますね。親子でも趣味を共有できるのは楽しいことです。

共有できるモノや一緒に楽しめる時間を増やしましょう。

「本」「漫画」「映画などのDVD」「音楽」「アート」「ファッション」「スポーツ」「旅行」など何でもよいです。大きくなった子どもだからこそ、一緒にできることってたくさんありますね。

4 「個みゆにけーしょん」を大事にする

時には親の役割をちょっとおいて置いて、「個」として子どもと向かい合ってみましょ。

親が子どもを「1人の対等な人間として尊重すること」は、何よりも子どもの自信につながります。

特に思春期・青年期の自立の時代にはとても重要なことです。

家庭をファミリーという単位で捉えがちですが、子ども一人ひとりと1対1で話をしたり、二人で出かけたりすることは、親と子それぞれに絆を深めるのによい機会です。

子どもが大きくなると家族全員で時間を合わせるのが難しくなります。

ぜひ「個みゆにけーしょん」をトライしてみてください。

5 子どもの「大切な人」を理解する

子どもを知るにはまずは友達や彼氏・彼女を知りましょ。親は見えない子どもの言動に不安に駆られるものです。

子どもの友だちや彼氏・彼女を家に遊びに呼びましょ。

『子どもの大切な人』を理解することは、親子のコミュニケーションを潤滑にするためのひとつのハードルです。

大げさに考えなくていいんです。子どもの「今」を知ることが大事です。

彼らと良いコミュニケーションがとれば、何かのときにも力になってくれます。

それに親に見せない一面を彼らをとおして知るのには興味深いものです。

6 「北風と太陽」の太陽になる

子どもが「間違っている」と思ったときに、頭ごなしに叱るだけが方法ではありません。

力を持って抑圧すると、反発もそれだけ大きいものとなります。

反発しなかったとしてもかたくなに口を閉ざすことにもなりかねません。

だからと言って何でも子どもに迎合するのがよいわけはありません。

難しいことですが、まずは「そうだね、気持ちもわかるよ」とよく話を聞いて、そこから「でもね・・・」と続けましょ。

コミュニケーションは会話が成立する状態にないと成り立ちません。

「北風と太陽」の物語のように、暖かな日差しでトゲトゲした心を溶かすことが大切です。

7 「世間」や「常識」でごまかさない

「みんなもそうだから」「常識ではそうだから」というのは親も子もよく使う逃げの口上です。

でも、説得力があるかといえば、そんなどこかの誰かの話などはたいした効き目はありません。

子どもは一般論を聞きたいわけではないのです。

「世間」とか「一般常識」とかを持ち出さずに、「自分たち」の話をしましょ。

親として自分がどうしたいのか、どうして欲しいのかを自分の言葉で伝える努力をしましょ。

(参考・引用)

「親子のコミュニケーションがよくなる魔法をかけませんか？」は、思春期・青年期の「親子スタイル」7つの魔法から掲載しています。

<http://www.oyakostyle.com/magic/>

IV-5 「夢見る力を育む応援～大人の役割を考えよう～」

① 進め方

- [ワーク1] 子どもの将来の夢についてグループで出し合う。
- [ワーク2] 子どもの良さや日々の頑張り等を出し合い、その特性にあった将来の姿を考える。
- [ワーク3] ワーク2をもとに夢の実現に向けて意欲をもって取り組んでいる子どもへの関わり方について、グループで話し合う。

② 実践例



最初に自己紹介をグループでしていただきます。自己紹介の内容は、お名前とご自分の子どものころの夢についてです。ご自分の子どもの頃の夢、覚えていらっしゃいますか。自分の子どもの頃、何にあこがれていたか、夢は何だったかなというのをグループの中で伝え合っていたいただきたいと思います。一人1分ずつくらいでお願いします。

どのグループも一通り自己紹介が終了したら、今回のワークの趣旨を伝える。

いろいろな夢が出てきてきましたね。学校の先生になりたいかったとか、歌手になりたいかったとか…。夢と仕事とが一致したかどうかは分からないですが、みなさん、いろいろな夢があったのではないのでしょうか。

今、ご自分の子どもの頃のことを思い出していただいたのですが、今度は、我が子のことを考えていきましょう。進路選択にもさしかかってくる年ごろですよ。我が子が今どんなことを思い描いているのか、我が子の夢と将来の姿がつながっているのかそして、そこを親としてどのように応援していけばよいのかということについて、今日はみんなでも楽しく考えていきたいなと思います。

それでは、お子さんの夢やあこがれの職業について思い起こしてみましょう。

ワークシート①の枠の中に思いあたることを書いてください。

後で、グループで交流したいと思います。

まだお子さんが夢を見つけていないとか、そういえばあまりそういう話題に触れたことがなかったなあという方は、そのままの今の現状、「うちの子はまだこれという夢が特にないの。」「そういえば、夢について話題にすることがなかったわ。」ということをお話して下さったらよろしいです。

まず少し時間を取ります。分かる範囲でよいので書いてください。



記入の様子を見て回る。

だいたい記入ができましたか？

では、今書いていただいたものをグループの中で、交流してください。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。

(予想される反応)

- スポーツ選手 ○画家 ○歌手 ○看護師 ○パティシエ ○獣医
- 理容師 ○警察官 ○甲子園へ行く ○オリンピック選手
- あまり夢について話したことがないのでわからない。
- まだこれといって我が子には夢がない。等



いろいろな子どもたちの夢が聞こえてきました。

スポーツ選手、学校の先生、イラストを描く人とか、甲子園に行きたいとか・・・。
今の子どもたちがどんなことを願っているのかが少し見えてきたかなと思います。

では、今度は先程の子どもたちの夢は少し横に置いておいて、お子さんが普段、得意としていることとか、努力していること、頑張っていること、この子はこういう面が長(た)けてるんじゃないかしら、こういうことを最近よくやってるなあというような現実のお子さんの姿を思い浮かべていただけますか。

例えば、字をととも丁寧に書いているとか、良く運動をがんばっているとか・・・。お子さんの頑張っている姿、こういうところが得意なのではないかなということ付箋に書き出してみましょう。お机の付せん紙、1枚に1つ・・・書いてください。

3つある人は3枚に、5つの人は5枚になります。では、どうぞ！

記入の様子を見て回る。

何枚かみなさん、書いてくださっていますね。では、お机の上にあるA3用紙を一人1枚ずつ手元に持っていていただいて、今書いた付せん紙をそのA3用紙に貼って貰ってもらえますか。少し間を開けて貼ってください。

これから、グループでお話をしていこうと思うのですが、ワークシート2にあります記入例をご覧ください。例えば子どもの姿で「手先が器用」とありますが、ここから想像できる子どもの将来大人になった姿を想像して、付せん紙に書いて貼っていきましょう。ここには「手先が器用」→「外科医」と示してあります。他には、「お菓子職人」とかもでしょうか。いろんな可能性を考えながら、その子の特性や得意なことから考えられる将来の職業や姿をグループのみんな考えていきましょう。

まずは、A3用紙をみんなに見てもらいながら、「うちの子はこんなことが得意なんです。」「優しいんです。」「人と関わるのが上手なんです。」と紹介していただいて、その後、周りのみなさんで、もちろん、ご本人も一緒に「あっ、じゃあこういうふうなことが、将来想像できるんじゃないの。」ということを話し合っ、まわりに貼っていきましょう。

これはもう、あくまでみなさんの勝手な想像なので、子どもの意志とは違うかもしれませんが、少し無責任にはなるかもしれませんが、思いついたまま、感じたままの意見を言ってくださいね。できるだけたくさんの将来の姿を考えていただけたらと思います。それでは、はじめてください。



グループを回り、話し合いの様子を観察する。

(予想される反応)

- スポーツが得意→体育の先生・スポーツ選手・スポーツ関係の仕事・コーチ・解説者
- 料理が得意→料理研究家・お料理上手な主婦・栄養士・コックさん・家庭科の先生
- 計算が得意→数学の先生・銀行員・税理士・塾の先生・IT関係の仕事・数学者
- 手先が器用→手芸家・子どもに何でも手作りできるお母さん・大工・物づくり・外科医
- 絵が得意→漫画家・画家・学芸員・美術の先生・イラストレーター・建築家・設計士
- 優しい→看護師・介護士・医師・保育士・養護教諭・カウンセラー・学校の先生・保健士
- まじめ→公務員・学校の先生・医師・警察官・大工・銀行員・会社員
- 自分の思いをはっきり言う→弁護士・政治家・学校の先生・警察官・ジャーナリスト

等



たくさんの付せん紙が貼れていますね。

お子さんの得意なこと、頑張っていることに焦点を当てて、こんな職業が向いているんじゃないか、こういうこと活かしたらいいんじゃないかということがたくさん出ていましたね。お母さんだけの考えだけではなくて、グループのみなさんの客観的な意見もたくさん出て、とても幅が広がっているように思います。

グループで話してみて、自分が考えていたのと違う、意外なことをみんなが言ってくれたという人おられますか？新しい発見があった方、ちょっと聞いてみるのもいいでしょうか。

数名に発表してもらおう。

ありがとうございました。

いつも見ている我が子であれば、ついつい、固定観念を持ってしまいそうなのですが、別の人が見てくれることによって、いろんな見方もあるということが体験できましたね。そういう自分の得意なことが何か職業に生きていくということもあるかもしれないし、必ずしもそこが結びつかないということもあるかもしれませんね。また、趣味とかプライベートなことで、得意なことを深めていくということもあるかもしれないですね。

ですから、子どもたちの得意なことを認めるということは何かの力になっていくのではないかなというふうに思います。

でも、今、お話していただいたのは、あくまで、大人の意見ということで、子どもが本当にそうなりたいと思っているかどうかは別ということは、忘れてはいけません。あなたはこれが得意だから、将来こうなりなさいというように、強制すると多少の摩擦が起こってくるかもしれません。

でも、子どもたちの多様な可能性を考える一つの参考になったのではないのでしょうか。

資料①を紹介する。



ここで、ベネッセの教育総合研究所からの資料を見てみましょう。
子どもたちが育っていく道のりと大人の役割が示してあります。
左側に示しているのが子どもの姿で、右側に示しているのが大人の支援になっています。


まずスタートは幼児期。小さな頃に様々な体験をすることで、子どもたちは「将来の夢」を抱くようになります。そのために、私たち大人は、子どもたちに日常生活の体験の幅を広げてやること、体験するチャンスを与えてあげることが必要なのです。
そして、そこから、お花屋さんになりたいな、消防士になりたいなというような、子どもの描く夢や気持ちを認めてあげることが必要な関わりとなっています。

小学生になってくると、さらに、いろんな得意なこと、苦手なことも出てくるでしょうし、その子なりの行動特性も見られてくるようになります。

その子なりの成長を認めたり、応援したりする大人の支援によって、自分でできることを増やしていったり、自分がやりたいことを深めていくことができくる時期です。
また、小学生になると子どもたちは家庭の中だけではなく、学校や地域の中で育っていくようになります。小学生への教師・大人の支援の一番上に「多様な周囲の人との交流活動、あこがれの人・職業の発見」とあるのですが、地域の中に出て行くことによって、こんな職業もあるんだとか、こんな仕事をしてくれる人がいるんだというように、いろんな大人の価値観に触れる経験をするようになります。ここでまた幅が広がり、選択肢も増えていくのです。
そして、また、自分もやりたいなあ、こうなりたいなあと思う気持ちを芽生えさせつつ、成長していく中で、なりたい自分とか、将来やりたい職業みたいなものも見えてきて中学生になっていっているってことですね。

中学生になると、もう、具体的に進路のことを考えるようになりますね。
「こういうことやりたいんだったら、こういう所をしっかりと勉強するといいよ。」といったアドバイスしてあげたり、具体的な進学・就職先を提案したりしてくれる大人の人があることが、この頃の子どもにとって必要なのです。

中学校になって急に「将来何になりたいの？」と聞かれても、自分は何になりたいのかよくわからないと思っているお子さんも最近は多いのですが、「小さいときに自分は何が好きだったのか」とか「どういうことにわくわくしたのか」ということをもう一回思い出してみると、もしかしたらやりたいことが見つかるかもしれませんね。
また、今、小学生のお子さんがいらっしゃる方は、どんどんモデルとなる人やあこがれをもつ人との出会いを積んでいくことが、中学校・高校になったときの選択肢が増えることにもつながりますし、やりたい方向に向かって目的をもって勉強することができるようになるのでしょね。



今までお話した中で、「ああ我が子ってこういうことやりたいのかな。」「こういうふうなことを応援してあげたらいいのかなあ。」というのがぼんやりと見えてきたと思うのですが、今度はもう少し具体的にどんな応援ができるかということを考えてみましょう。あくまでお子さんの気持ちというのが大事だと思うので、大人が強制的にというのではなくて、子どもがどういう気持ちなのかなあということを想像しながら考えていけるといいですね。

応援の仕方ですが、ここに例が二つ書いてあります。「直接的な支援」と「間接的な支援」と書いてあるのですが、二つの側面で考えていきましょう。「直接的」というのは例えば、野球選手になりたいという夢があったとするならば、キャッチボールの相手をしてあげるなど、技術的なところ、学習的なところの応援ですね。


「間接的」というのは、「褒める」とか「応援する」とか「上手にできたね。」とか、気持ちの面、内面的なところの応援とってください。

この二つに整理をしながら、応援の仕方を考えてみましょう。

後でグループでお話したいと思います。

まず、ご自分でお子さんの姿を思い浮かべながら、考えてみてください。

記入の様子を観察する。



よろしいでしょうか。

だいたいみなさん、書けたようなので、グループでお互いに考えたことを出し合いながら、アイデアを持ち寄りたいと思います。

グループで、こういうふうな大人の支援があれば、子どもの夢の実現とか、子どもの力が伸びていくのではないかなあと思ったということを伝え合ってみてください。

グループを回り、話し合いの様子を観察する。これはと思うものについては、グループでの話し合いの後、全体に広げる場合があってもよい。

(予想される反応)

【直接的支援】

- やってみたいことをさせてみる
- 本人がやりたくなくても、とりあえずいろいろな経験をさせてみる
- 本物に触れさせる(美術館で鑑賞・スポーツ観戦・動物病院に連れて行く等)
- 環境を整える(画材をそろえる・道具をそろえる・練習できる環境づくり等)
- 子どもの話を最後までしっかり聞く
- 夢を語り合う場を設定する ○ 子どもの夢を否定しない

【間接的支援】

- 認める ○ 温かく見守る ○ 褒める ○ 子どものピンチに寄り添ってやる
- 励ます ○ 思いを共有する(一緒に体験して感想を交流する・一緒に楽しむ)
- 健康づくり(バランスのとれた食生活～すべてにおいて身体が資本なので)





みなさん、お話ができましたか？
それでは、グループで出た支援をいくつかのグループに紹介いただきたいと思います。

いくつかのグループに発表してもらおう。



ありがとうございます。
それぞれのグループですてきな支援や考え方、具体的な方法がたくさん出ていましたね。「話を聞いてあげる」というのはいくつかの班でも出ていたなあと思いました。話を聞いてあげたり、子どもが夢を言った時に否定しないで、受け止めていくということが大事なのでしょうね。

今日、みなさんそれぞれにグループの中でお話をしていただいて、得たものがあると思います。それを大事に持ち帰っていただきたいと思います。

資料を②～⑥より選択して紹介し、まとめとする

資料②③



これは、日本経済団体連合会が発表した、会員企業が人材を採用する時の条件ということで、選考に当たって特に重視した点を表しています。

データをご覧ください。

一番高いのが、なんとコミュニケーション能力となっています。その次が主体性、その次がチャレンジ精神となっていますね。

みなさん、どうですか。なるほどという気もしますし、勉強とか専門性とかいうのは意外にも低いのだなと思ったりもしますね。

もしかしたら、入社してから専門性は高めていったらいいということなのかもしれません。リーダーシップもあまり高くないのですね。みんながリーダーというよりは協調性の方が重要視される時代なのかもしれません。

会社の性質によっていろいろな考え方があるのかもしれませんが、コミュニケーション力とか、主体性、チャレンジ精神というのは、大企業に限らず、どんな社会に出ても大事なところかと思います。これは、日々の生活の中で、たくさん育てていってあげることができると思いますし、先程、話をしっかり聞いてあげるというもの出ていましたが、そういうこともコミュニケーション能力にもつながるのではないのでしょうか。

また、夢を語り合うことが、主体性とか、そういうところにもつながるのかなとも思います。

資料④⑤

これは、株式会社クラレ実施のアンケートをもとに作成しています。

資料④をご覧ください。

「小学校6年生の将来就きたい職業トップ10」と「親が将来就かせたい職業トップ10」をならべて示しています。

6年生の男の子は、スポーツ選手、研究者、エンジニアという職業にあこがれをもっているのですね。そして、親が就かせたいと思うのが「1位 公務員」、そして研究者、エンジニアと続いていますね。スポーツ選手も7番目にありますね。2、3は、親も子も共通していますね。

女の子は自分が就きたいのが、保育士、教員、看護師、親の方は、看護師、教員、保育士、これも同じようなものがあがっています。

でも、子どもならではの、例えば男の子10位の宇宙飛行士というのは親の方にはないのですね。親の方は「そんなの無理でしょう。」と思っているかもしれませんね。そのようにギャップがあるものもあれば、共通しているものもあるという感じですね。

これが、子どもがなりたいたって思っているから親も就かせたいなと思っているのか、親が就かせたい、就かせたいと言っているから、子どもも就きたいと思うようになるのか、そのあたりの事情はよく分かりませんが、子どもがなりたいたなあと思っているものを親が応援するという方向がすてきなあとと思います。

資料⑤をご覧ください。

男の子と女の子、入学時と卒業時の将来就きたい職業の比較を示しています。1年生と6年生でずいぶん変わっているものもありますね。

男の子はスポーツ選手、卒業時もスポーツ選手という、ここは変わっていませんが、入学時にアニメキャラクターになりたいというのは6年生ではもうなかったりします。6年生になると、建築家とか鉄道・運輸関係など、違うものも入ってきていますね。

女の子も、ケーキ屋・パン屋さんが1番だったのが、8番目に下がっていたり、保育士さんが6番から1番になっていますね。

きっと、1年生から6年生までの6年間の間にいろいろな経験を広げていったことによって、職業が見えてきたり、なりたいたい像とかあこがれの人が変わっていったりしたのかもかもしれません。



昔の子はけっこう大きな夢を持っていましたが、最近の子はちょっと現実的な夢になってきているかなと書かれています。昔は宇宙飛行士とかお医者さんとかといったのが、最近では会社員とか、現実に見える姿というのが子どもの中に大きくなっているのかなと思います。

「夢は行動する力の源です」ということで、最初は、お父さんがかっこよかったり、お母さんがすごくてきに見えたり、と身近な大人に憧れていくのですが、だんだんいろいろな技術をもった人とかに出会う中で、あんな人になりたい、こんなこともやってみたいというふうに広がっていくのですね。

オリンピックを見て、プールに通い始めたり、何かスポーツを始めたりということもあるということです。そういう時には、成功している場面だけを見せるのではなく、練習している様子なども見せてあげることができると、また頑張りたいという気持ちも膨らむのかなというように書いてあります。

また、「ぼく、オリンピックに出る」というような大きな夢を語った時に、「あなたみたいなのでは無理よ」というように言うてしまうと、もう挑戦する前にくじけてしまいます。誰もが本当はオリンピック選手になれるわけではないのですが、その時の思い、こうしたい、こうなりたいという思いが、いろいろな力のエネルギーになっていくのです。例えば、オリンピック選手にはならなかったとしても、その時水泳に通った半年間とか1年間の間にその子なりに水泳が上手になったりとか、筋肉がしっかりついたりだとか、健康になったりということもあるかもしれません。

大きな夢を語った時には、親としてもしっかり受け止めてやるのが大切です。その子なりにしてみたいことを何らかの形で現実にてきたらよいのではないのでしょうか。そして、やりながら、ああやっぱり自分はそういう所までは至らなかった、だめだったなあというような気持ちが子どもの中にわいてくるのだと思います。そうすることで、その子なりに納得をして、自分はこっちの方が得意だからこっちに向いていこうというふうに方向転換をすることができるのです。

無理なことをあきらめるという結果だけみると同じことですが、周りが、最初から「それはだめだよ」「できるはずないよ」と言ってあきらめなければならない時とは、気持ちの上で大きく違うものがあるということです。

ですから、何かに夢中になった時は、それを応援してあげられたらいいなと思います。自由に夢を見て、でも、それにまた縛られすぎないことが大事なのかなと思います。

資料説明の後で



先程、みなさんが書いてくださった、応援の仕方を大事にさせていただきながら、これからまた、子どもたちの夢を応援していけたらいいですね。
今日、みなさんと一緒に考えてきた中で、心に残ったことがそれぞれにあると思うので、最後にそれをグループの中で伝え合って終わりにしましょう。
では、みなさんで、今日の感想や得たものなどをワークシートのふりかえり部分に記入してください。伝え合ってください。

振り返りの様子を観察する。
時間があれば、数名に発表してもらおう。



ありがとうございました。
みなさん、それぞれ感じたことを言葉にさせていただきました。
今日は、子どもの夢を応援するということでみんなで一緒に考えてみました。
「夢は行動する力の源」です。
いろいろな形で子どもたちを応援していけたらと思います。

V-1「子育ての不易流行を考える」

① 進め方

- ワーク1 エピソードを読み、感じたことを自由に出し合う。
 ワーク2 子育てや親について、変わらないことについて考え、共有する。
 ワーク3 子育てについて環境や親の対応について、変わったことについて、グループで話し合ったり、資料をもとに背景を考える。

② 実践例



『近頃の親は…』と思うことありませんか？逆に『おっ！なかなかやるな！』『さすが最近の親だな！』と思うことはありませんか。子育ての先輩であるみなさんから見ると、ご自分のお子さんたちの子育て、みなさんから見ると孫育てについて、心に思っていることが何かあるのではないのでしょうか？そこで、今日は最近の子育て事情について、お集まりのみなさんで考えたいと思います。

「エピソード」を配付し読む。
 ペープサートや、参加者に息子や吉田さんの台詞を読んでもらってもよい。

吉田さんと息子のやり取りを聞いて、みなさんはどう思われましたか？感じたことを自由に出し合ってみてください。お一人1分ずつで、順番にお願いします。

(予想される反応)

- 「吉田さんの気持ち、分かる！」
- 「子どもがかわいそう。」
- 「誰か子どもを見てくれる人はいなかったのかな。」
- 「息子が言うように何か事情があったのかもしれない。」
- 「自分が子育てしていた時代と今の子育てしている時代は違う。」
- 「夜気軽に出歩ける店が増えたので昔と比べて、出かける親子が多いと思う。」



すぐに感想が出てこないようだったら、吉田さんが言っていること、息子が言っていることについてどう思うかを尋ねる。



では、どんな感想が出てきたでしょうか？グループで出た感想を少し紹介してください。

一つか二つのグループに発表をしてもらおう。

感想の中に「子育てについて『時代が違う…』から」ということがありましたが、みなさんが子育てをされていた頃と現在とでは約30年ぐらい経っているのでしょうか？それでは、その頃の子育てを思い出しながら、次にワークをやってみましょう。



ではまず、あなた自身が子育てをされていた頃と、今の子育てや親について、変わっていないなあ・・・同じかなあ・・・と思うことや感じていることを話し合ってみたいと思います。
「これは変わらない」と思うこと一つを1枚の紙に書いていってください。時間は〇分です。どんどん書いていってください。よろしいでしょうか。よういドン。

記入の様子を観察する。



それでは、ペンを置いてください。付せん紙を模造紙に貼りながら順番に、お一人1分ぐらいずつで発表していきましょう。同じ意見や考えは同じ所にまとめて貼っていってください。

(予想される反応)

- 「子どもはかわいい。」
- 「子どもはお母さんが好き。」
- 「厳しくしつけるときにはしつける。」
- 「人の迷惑にならないようにしつける。」
- 「自分のことは自分でできるようにする。」
- 「子育てに一生懸命。」



ありがとうございました。グループでどんな意見や考えが出たでしょうか？簡単に教えてください。

2グループぐらいに発表してもらい、板書する。

親の子どもへの愛情は変わらないと思うのですが、みなさんが子育てしていた頃と比べて、今の子育てについて変わったなあと感じることが何かありますか？先ほどと同じように思いついたことを付せん紙にどんどん書いていってください。時間は〇分です。では、よういドン。

記入の様子を観察する。

それでは、ペンを置いてください。付せん紙を模造紙に貼りながら順番に、お一人1分ぐらいずつで発表していきましょう。先程と同じように、同じ意見や考えは同じ所にまとめて貼っていってください。

(予想される反応)

- かまいすぎ(過保護, 過干渉)
- 好き嫌い(食べ物)を認める。
- 核家族が増え、家庭の教育力が低下。
- 働く女性が増えた。
- 夫婦で協力して子育てをしている。
- 昔に比べて歯みがきを丁寧に行っている。
- 塾, 人任せ
- 子どもに甘い。





ありがとうございました。グループでどんな意見や考えが出たでしょうか？簡単に教えてください。

2グループぐらいに発表してもらい、板書する。

子どもへの愛情は変わっていないのに、(発表された意見)など、子育ての仕方が変わったと感じます。その背景は何だと思えますか？

『家庭の教育力が低下した』という意見もありましたが、資料1を見ますと、世間一般でも約8割の方がそう思われています。

そしてその理由は、何だと思えますか？

(参加者へ尋ねてみる。)

『子どもに対して過保護・過干渉な親が増えている』『子どもに対するしつけや教育の仕方がわからない親が増えている』が共に74%を超えています。

他にも『しつけや教育を学校等の家庭教育以外に依存している』が多く、親子で共に過ごす時間の減少なども上がっています。文字が小さくてすみませんが、その他の理由は・・・」

(それぞれの理由に納得できるか確かめながら)

「自分の子育てに自信が持てていない人や相談相手がいないという理由がありました。世帯数の将来推計をご覧ください。」

『家族と過ごす時間が取れない』という理由は何でしょうか？

そうです。やはり仕事です。仕事が忙しく家族との時間が取れないのです。不況で働かざるを得ない状況のようです。

生活をしていくには、両親共働きが当たり前になってきています。では、仕事と子育てを両立させるためには何が必要でしょうか？

子どもと子育てを応援する地域の大人として、今日からできること・・・やってみようと思うことをみなさんと話し合ってみてください。

グループで話し合いの時間を取り、内容をグループごとに発表して、まとめとする。

【エピソード】

ある日の夜、吉田さんは夫とふたりでドラッグストアに出かけました。買い物をしていると、小さな子どもたちを連れて若い親がお店に入ってきました。最初はおとなしくしていた子どもたちも、次第に店内を走り回り、床に寝ころんだりしはじめました。でも、親は注意する様子はありません。

次の日、孫を連れて遊びにきた息子に、吉田さんはさっそく昨夜の出来事を話しました。

息子:「遅い時間に子どもをつきあわせるのはおかしいと思うけれど、何か事情があったかもしれないよ。生活のスタイルだって昔と変わってきているんだし。」

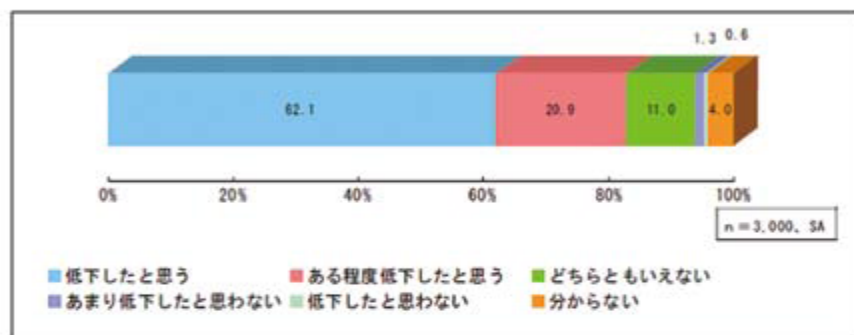
吉田:「でも、子どもも疲れていてかわいそうだったわ。子どもには子どもの生活リズムがあるのよ。夜遅く、子どもを連れ回すなんて・・・。」

「家庭の教育力」の低下について

③「家庭の教育力」の低下に関する意識

すべての人に、「家庭の教育力」の低下についてどのように思うか、と聞いたところ、「低下したと思う」が62.1%（1,863人）、「ある程度低下したと思う」が20.9%（627人）である。「低下したと思う」と「ある程度低下したと思う」を合わせると、家庭の教育力が低下したと思う人が8割以上に及んでいる。

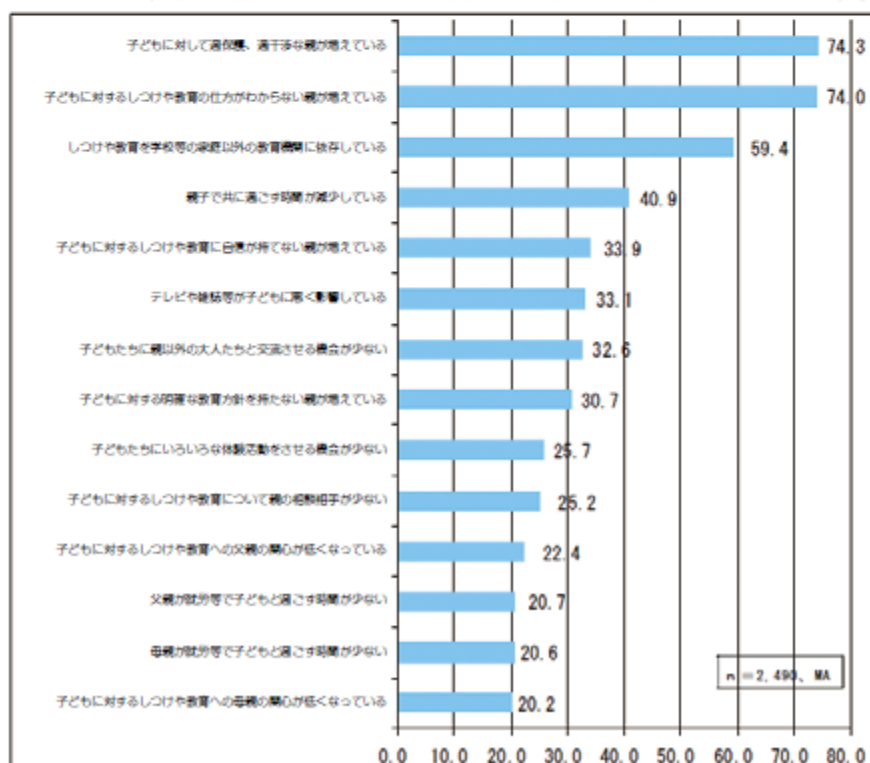
また、「どちらともいえない」は11.0%（331人）、「あまり低下したとは思わない」は1.3%（39人）、「低下したとは思わない」は0.6%（19人）、「分からない」は4.0%（121人）である。



【図2-3：「家庭の教育力」の低下に関する意識】

④「家庭の教育力」が低下したと思う理由

家庭の教育力が「低下したと思う」「ある程度低下したと思う」と回答した人に、その理由について聞いたところ（複数回答）、「子どもに対して過保護・過干渉な親が増えている」74.3%が最も多く、次いで、「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親が増えている」74.0%、「しつけや教育を学校等の家庭教育以外に依存している」59.4%をあげている。（%）



【図2-4：「家庭の教育力」が低下したと思う理由】